

科目名	保育者論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許・保育士資格取得のための必修科目である。保育者の仕事、役割と倫理、職務内容、制度、専門性、協働の在り方について理解することを目的とする。

科目の概要

保育の仕事・保育者に関する具体的なイメージを獲得し、保育者としての在り方を学ぶため、保育の場の事例や保育者養成課程の学生の事例、保育実践を映した視聴覚資料など様々な資料を用いて授業をおこなう。また、受講者自身の進路や職業など将来像の構築と獲得に向け、身近な問題と関連づけながら自己を振り返り考察する機会を設ける。

学修目標

- ・ 保育者とはどういう存在か、保育者の資質、役割、職務内容、在り方等について理解する。
- ・ 保育者の専門的成長のプロセスと成長を促す要因について学び、求められる保育者像について理解し、自らの資質・能力を高めるための視点を得る。

内容

第1回：保育者とは

第2回：保育者の仕事と役割、専門性（1）幼稚園教諭

第3回：保育者の仕事と役割、専門性（2）保育士

第4回：保育の現行制度と歴史

第5回：保育者の職務内容、資格、倫理

第6回：乳幼児期の子どもにとっての保育者

第7回：子ども理解と保育実践

第8回：青年期の自己と進路・職業選択

第9回：保育者の保育実践と省察

第10回：保育における協働と連携

第11回：保護者への対応

第12回：子育て支援にかかわる協働

第13回：地域の教育機関・専門機関との連携

第14回：成長する保育者、研修と相互啓発

第15回：まとめ

評価

授業への取り組みと授業終了時の小課題提出（50点）、期末レポート（50点）による評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<テキスト>

秋田喜代美（編）「今に生きる保育者論」（株）みらい

<参考図書>

子どもと保育総合研究所 「最新保育資料集」 ミネルヴァ書房

科目名	障害児保育		
担当教員名	渡辺 和弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育所・幼稚園では、障害をはじめ、特別な配慮や支援を必要とする気になる子どもが増えている。ノーマライゼーション理念、インクルージョン等の国際的動向により、その傾向が加速されるであろう。このため、保育者には障害についての理解とその保育観の形成が不可欠といえる。

本講義では、障害児保育の現状と課題、障害特性の理解と支援、気になる子どもへの対応、保護者・関係機関との連携について学ぶ。

学修目標は、障害児保育の実態と課題を理解すること、障害の特性と支援について理解すること、個別の支援計画の作成・活用による保護者・関係機関と連携した支援について理解すること、である。

内容

1	障害児保育(関連する用語の整理)の考え方と障害児保育の場の特徴
2	障害児保育の現状と今後の方向
3	乳幼児期の発達(感覚・運動の発達)について
4	感覚統合の指導とは
5	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成・活用
6	障害幼児の保育・教育のカリキュラム
7	障害特性の理解と支援(1)知的障害、肢体不自由
8	障害特性の理解と支援(2)視覚障害、聴覚障害、病虚弱
9	障害特性の理解と支援(3)広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)
10	障害特性の理解と支援(4)注意欠陥多動性障害、学習障害、気になる子
11	ことばの発達とその指導
12	日常生活の指導(基本的生活習慣の確立)
13	関係機関との連携による障害児保育
14	インクルーシブ保育をめざした障害児保育の今後の課題
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(40点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(10点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】渡邊健治他編「幼稚園・保育園等における「個別の(教育)支援計画」の作成・活用」
ジアース教育新社。

【参考図書】田中康雄監修「わかってほしい気になる子」学研、高松鶴吉「障害児保育の原理」学研

【その他】必要に応じて随時授業で紹介します。毎回授業時に資料を配布します。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	上垣内 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計(安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮)
5	保育内容の吟味(子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える)
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画(週案・日案)/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度(20%)、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容(20%)、グループ活動による作成資料の提出(30%)、学期末のレポート(30%)により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容総論		
担当教員名	横井 紘子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、児童幼児教育学科児童教育専攻の学科専門科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。5領域からなる保育内容を学習し、3・4年次の実習へと向かうための総まとめの科目という性格を持つ。

科目の概要

幼稚園や保育所は、子どもたちが自ら環境にかかわり、遊びを中心とした様々な経験を通して総合的に発達をとげている場所である。本授業では、どのような環境や保育内容が子どもにとってふさわしいかについて総合的に考える視座を養うことを目的とする。これまでの各授業での学びや実習を振り返る中で、子どもにして欲しい経験、必要な経験などを具体的に考え、それを具現化するための園環境、保育方針等をグループで設計・作成し、発表することを予定している。

学修目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域と領域間の関係について理解する。
- ・幼稚園および保育所における保育内容を吟味する目を養う。
- ・乳幼児期にふさわしい保育内容を自ら計画し実践するためのスキルを獲得する。

内容

1	保育内容とは何か
2	グループワーク1「私たちの幼稚園・保育所をデザインする」 名称 / 基本情報の決定
3	教育方針の設定
4	園舎・園庭の設計（安全性・機能性・創造性・経験の多様性等に配慮
5	保育内容の吟味（子どもたちが取り組む活動や経験の意味、保育的意図やねらいを考える）
6	幼稚園の特長・特色の明確化
7	グループごとの発表1回目
8	グループごとの発表2回目
9	グループワーク2「教育課程・指導計画等の作成」 作成した保育内容の再考・検討
10	保育内容の具体化
11	保育内容にもとづいた教育課程/指導計画（週案・日案）/行事計画等の作成
12	グループごとの発表1回目
13	グループごとの発表1回目
14	まとめ 子どもの経験を総合的に捉える視点の獲得 「領域」の窓から子どもの経験を捉える
15	各領域の関係性を考える

評価

授業への参加態度（20%）、グループ活動への取り組みの姿勢とプレゼンテーションの内容（20%）、グループ活動による作成資料の提出（30%）、学期末のレポート（30%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

（他に毎回プリント資料配布）

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	村田 光子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭一種免許や保育士資格取得のための必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

科目の概要

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、乳幼児期の人とかかわる力の発達過程をふまえた保育者の援助について、演習形式で学ぶ。

学習の目標

- ・乳幼児期の子どもの人間関係の育つ過程を知り、保育者や友だちとのかかわりの中で、どのように人間関係が育っていくのかを理解する。
- ・領域「人間関係」の意義とねらい・内容を理解し、具体的な乳幼児の姿と結びつけて考えることができる。
- ・たくましい社会性の形成を目指して、幼稚園教諭、保育士として積極的に援助することができるようになる。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

現代社会と人とかかわり

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期後半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期後半）

領域「人間関係」の意義、ねらい・内容

領域「人間関係」とその他の領域との関係

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助（事例を中心に）

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助

人とかかわりが難しい子どもへの支援

人とかかわる力を育てる大人の人間関係

まとめ

評価

期末テスト（70％）、ミニレポート、学習への参加状況（30％）を総合して評価する。

合格点（60点）に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト 榎沢良彦・入江礼子編著 『シードブック 保育内容 人間関係』 建帛社

参考資料 文部科学省 [幼稚園教育要領解説] フレーベル館

厚生労働省 [保育所保育指針解説書] フレーベル館

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」改訂版 ぎょうせい

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	村田 光子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は幼稚園教諭一種免許や保育士資格取得のための必修科目であり、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示されている「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

科目の概要

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、乳幼児期の人とかかわる力の発達過程をふまえた保育者の援助について、演習形式で学ぶ。

学習の目標

- ・乳幼児期の子どもの人間関係の育つ過程を知り、保育者や友だちとのかかわりの中で、どのように人間関係が育っていくのかを理解する。
- ・領域「人間関係」の意義とねらい・内容を理解し、具体的な乳幼児の姿と結びつけて考えることができる。
- ・たくましい社会性の形成を目指して、幼稚園教諭、保育士として積極的に援助することができるようになる。

内容

乳幼児における対人関係の芽生えを大切にし、一人一人の子どもにどのように寄り添い、援助していくかという人間関係の指導法の基礎理論を学んでから、具体的な乳幼児の生活場面や実習場面の記録などを資料にして、人間関係の把握や保育者のかかわり方についての考えを深めていく活動を行う。

現代社会と人とかかわり

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（乳児期後半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期前半）

乳幼児期の人とかかわりの発達（幼児期後半）

領域「人間関係」の意義、ねらい・内容

領域「人間関係」とその他の領域との関係

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり（事例を中心に）

生活や遊びの中で育つ人とかかわり

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助（事例を中心に）

人とかかわりを育てる保育者の役割と援助

人とかかわりが難しい子どもへの支援

人とかかわる力を育てる大人の人間関係

まとめ

評価

期末テスト（70％）、ミニレポート、学習への参加状況（30％）を総合して評価する。

合格点（60点）に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト 榎沢良彦・入江礼子編著 『シードブック 保育内容 人間関係』 建帛社

参考資料 文部科学省 [幼稚園教育要領解説] フレーベル館

厚生労働省 [保育所保育指針解説書] フレーベル館

文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」改訂版 ぎょうせい

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期のことば
2	乳幼児期のことば
3	保育内容（言葉）を理解する
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	保育者の言葉と援助
7	子どものことばを豊かに（絵本）
8	絵本・物語とイメージーション
9	読み聞かせの演習
10	ことば遊び / 劇遊び
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	まとめ

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状および保育士資格取得のための必修科目であり、この科目を履修していることが幼稚園、保育所での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

子どもの発達理解、保育援助、教材研究、保育者となる自分自身の言葉への感性を育むという、4つの観点に立って授業は構築されている。発達理解に基づいて、子どもを受容し、安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かろうとする態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。後半には、保育案を作成しての絵本の読み聞かせをしたり、ペープサートを作成して簡単な劇を楽しんだり、絵本を作って合評する。受講することでコミュニケーションと文化について考察すると共に、文化の受け手としてだけでなく作り手としての自己を啓発することを望むものである。

学修目標

- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。
- ・ 乳幼児の自己表現とコミュニケーションについて多面的に理解する。
- ・ 絵本等の児童文化財についても、教材研究と実践スキルを養う。
- ・ 詩作や絵本作り、劇遊びなどを通して、言葉に対する感覚を養う。

内容

1	コミュニケーション能力の発達：乳幼児期のことば
2	乳幼児期のことば
3	保育内容あ8言葉）を理解する
4	実際の子どもの姿から「子どもの言葉」について考える 子どものコミュニケーション様式
5	遊びの中の言葉 / ごっこ遊びの中での会話
6	保育者の言葉と援助（実践記録を基にした学習）
7	子どものことばを豊かに（絵本）
8	絵本・物語とイメージーション
9	読み聞かせの演習
10	ことば遊び / 劇遊び
11	ことば遊び / 劇遊び
12	簡単なペープサート作成と劇遊び体験
13	文字・数・記号の獲得と保育
14	気になる言葉の遅れや問題
15	まとめ

評価

授業への参加態度（30%）、学期内の小レポート（30%）、学期末のレポートと作品の提出（40%）により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 幼稚園教育要領解説 フレーベル館
厚生労働省 保育所保育指針解説書 フレーベル館
（他に毎回プリント資料配布）

【推薦書】

【参考図書】授業開始時に指示する

科目名	保育内容の指導法（音楽表現）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、指導できることを学修目標とする。

内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

(1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3～4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2～3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方

流れるリズムの捉え方

縦乗りのリズムの捉え方

評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・お誕生会あそび&運動会ダンス(キングレコード)など

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素>運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法>紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素> 運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法> 紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	保育内容の指導法（身体表現）		
担当教員名	坪倉 紀代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

【授業の概要】

10人の子供がいれば10通りの発想と動きが生まれることを前提に、多様な運動経験を子どもから引き出し、子どもとともにその運動を楽しみながら、子ども自身が活動を進めていけるような援助の方法を考えていく。指導案を作成し、お互いに模擬指導を体験するグループワークを随時実施していく。“身体表現基礎”における学びをもとに、さらに豊かな感性と身体による表現力を高め、創造性豊かな学生の育成を図る。

【到達目標】

- ・ 保育の場で身体表現の活動を指導展開していくための知識、方法、留意点を学ぶ。
- ・ 幼児の身体表現にふさわしい題材の検討・開拓をし、試行する。
- ・ “身体表現基礎”における学びをもとに、さらに子ども理解を深めながら身体表現の経験を進める。

受講制限

“身体表現基礎”の履修が完了していること

内容

1	子どもが本来持っている活動欲求、運動欲求を満たすということについて
2	運動によるカタルシスを体験しよう
3	“からだをあそぶ・からだであそぶ”ということについて
4	子どもたちのそれぞれのとらえ方、あらわし方を認めるということについて
5	からだの快感を保障してあげるということについて
6	<動きを引き出す言葉かけの要素>運動そのものを明確にしていく
7	” 擬音語・擬態語との関係
8	” イメージと結びつけて
9	” 変化を生みだす状況設定
10	” ストーリーを考える
11	<多様な題材からの身体表現と指導法>紙飛行機
12	” 音、声、擬音語・擬態語
13	愉快的、面白い動詞を起点に
14	身近材料（小箱）を活用して運動あそび、表現あそびを考える
15	絵本から身体表現へ

評価

授業への取り組み方を基本とし、実技試験・模擬指導の実施、レポート・毎時の記録等から評価する。

平常点50%、試験・指導30%、レポート・記録20%

三分の二以上出席することで評価を受けることができる。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

斎藤孝、山下柚実 『五感力を育てる』 中公新書

高田ケラー有子 『平らな国デンマーク』 NHK出版

山本直英、片山健 『からだっていいな』 童心社

科目名	初等社会科指導法		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。

教科としてどのような目標を持ち、社会科の各学年の内容をどのような順にどのような指導方法によって教科指導を進めるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

- ・社会科の目標、各学年の教育の目標・内容・などについて理解を深める。
- ・学習内容の系統性や年間指導計画、単元の構成、指導方法について、具体的な実際例などを活用しながら理解を進める。
- ・小単元を取り上げ、指導計画の作成及び1時間の指導案を作成し、模擬授業に取り組み、実際の社会科学習指導に向けての実践力を高める。

学修目標

- ・社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深め、授業実践に取り組み実践力を養う。

内容

1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業のあり方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(1)
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(2)
13	社会科の模擬授業の実際(1)
14	社会科の模擬授業の実際(2)
15	社会科の模擬授業の実際(3) ・まとめ

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物 60点 模擬授業等への取り組み 40点、等を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 児童用教科書
- ・ 教科書の教師用研究物

科目名	初等理科指導法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は小学校教員の免許状取得のための必修科目である。

「理科」について、興味関心を高め、基本的概念や低利法則などを系統的構造的にとらえ、科学的自然観を養う。児童の理科離れ傾向の強い今日、教師が理科という教科の特性を認識し、児童が自然の事物現象に対して関心を持ち働きかけができるように仕向けて行きたい。小学校理科A物質・エネルギー、B生命・地球の各内容を教科書から具体的に取り出して、できる限り楽しく生活化して「わかる理科」として小学校現場に照らした内容で授業を進める。

児童が理科を嫌いにならないように、実験も身近な現象から考えられるような習慣を身につけてもらいたい。そのために、教師自身が身近な現象にも疑問や問題意識をもって考え、追究しようとする態度をもってほしい。

内容

1	初等理科教育の現状と課題
2	教職と小学校理科、理科の目的、基本と基礎、関心と興味について（学習指導要領理科編）
3	学習指導案の作成（指導案の目的、構成要素など）
4	実験・観察の進め方とまとめ方
5	小学校理科A領域の目標と内容（板書計画、発問、ワークシートの作成）
6	児童中心のカリキュラムからみた理科授業のあり方
7	理科授業における安全教育（小学校理科実験での事故例と対応）
8	理科における構成主義的学習論に基づく指導法
9	小学校理科B領域の目標と内容（板書計画、発問、ワークシートの作成）
10	学習指導案の作成と模擬授業
11	地学分野の授業校生と追究活動の仕組み方
12	理科学習におけるICT活用授業と指導技術
13	理科におけるポートフォリオ評価（理科学習における目標と評価の仕方）
14	理科模擬授業の反省と評価の仕方
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価（40%）、提出された学習指導案に対する評価（20%）、授業態度など授業に対する意欲（20%）、まとめのレポート（20%）を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）

【参考書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎と展望（東洋館出版社）

科目名	初等音楽科指導法		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

またその知識を生かして、小学校における音楽教育の指導力をたかめることを目指す。

内容

1	音楽教育とは？
2	小学校学習指導要領 音楽について
3	音楽の歴史
4	1年生の音楽 歌唱指導 音楽理論(譜表・派生音について)
5	1年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論(和音について)
6	2年生の音楽 歌唱指導 音楽理論(音程について)
7	2年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論(調について)
8	3年生の音楽 歌唱指導 音楽理論(発想記号について)
9	3年生の音楽 楽器(リコーダー)
10	4年生・5年生の音楽 歌唱指導
11	6年生の音楽 歌唱指導
12	中学年の合奏指導
13	高学年の合奏指導
14	中・高学年の鑑賞指導
15	まとめ

評価

毎回の課題(40点)、試験(50点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[テキスト] 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版

[参考図書] 「音楽科指導書 音楽編」(文部科学省) 「初等科音楽教育法」(音楽の友社)

科目名	初等家庭科指導法		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また教科書の内容から調理実習や被服製作など実際に体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りも行い模擬授業の経験も取り入れるようにする。

内容

1、本授業のガイダンス

授業計画、準備するもの、評価など

2、家庭科の教科書を見て5,6年生の2年間に授業で扱う内容を把握する。

児童の視点で教科書を見て気づいたことを話し合ってみる。

教師の視点で再度教科書を見てどのような働きかけができるかいくつかの事例について話し合う。

学習指導要領を見直し、どの教材がどういう形で取り上げられているか照合してみる。

3、指導法の研究

指導してみたい題材を見つけ指導案を書いてみる。

互いに発表し合ってみようところや問題点を話し合う。

代表が模擬授業を行い、授業の進め方の改善点を話し合う。

4、実際に実習をする。

～ 食領域から調理実習2回

2回の調理実習の計画を立てる

調理実習（1）グループの計画でおやつ調理実習

調理実習（2）グループの計画で食事から一品調理実習

調理実習をふりかえって

～ 衣領域からミシンを使って被服製作

衣服領域の内容から製作の指導 ミシンと手縫いで作品作りの計画を立てる。

～ ミシンと手縫いで小物を縫う、作品を見合ってみる。

実習室使用の関係で授業内容が入れ替わることがある。

評価

毎回の課題の記録やレポートで75%程度、作品や発表等で25%程度を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校家庭科教科書 開隆堂出版、小学校指導要領解説 家庭科編 文科省

【推薦書】家庭科はおもしろい 牧野カツコ監修 国土社、授業力UP家庭科の授業 鶴田敦子編著日本標準、家庭科の底力 作る手が子どもたちを輝かす お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社、小学校家庭科教育研究 教師

養成研究会家庭科教育学部会編著 学芸図書、家庭科ワークノート食生活と自立 大神田徳子 地域教材社

【参考図書】ティーンガイド 2冊 牧野カツコ監修、家庭科再発見 堀内かおる編著 開隆堂

科目名	初等家庭科指導法		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校家庭科の学習内容をどのように指導すれば効果的かをこれまでの具体的な実践を交えて説明する。また教科書の内容から調理実習や被服製作など実際に体験する機会もできるだけ盛り込んで指導し、指導の手がかりが持てるよう配慮する。また、家庭科の年間指導計画や学習指導案作りも行い模擬授業の経験も取り入れるようにする。

内容

1、本授業のガイダンス

授業計画、準備するもの、評価など

2、家庭科の教科書を見て5,6年生の2年間に授業で扱う内容を把握する。

児童の視点で教科書を見て気づいたことを話し合ってみる。

教師の視点で再度教科書を見てどのような働きかけができるかいくつかの事例について話し合う。

学習指導要領を見直し、どの教材がどういう形で取り上げられているか照合してみる。

3、指導法の研究

指導してみたい題材を見つけ指導案を書いてみる。

互いに発表し合ってみるとよいところや問題点を話し合う。

代表が模擬授業を行い、授業の進め方の改善点を話し合う。

4、実際に実習をする。

～ 食領域から調理実習2回

2回の調理実習の計画を立てる

調理実習（1）グループの計画でおやつ調理実習

調理実習（2）グループの計画で食事から一品調理実習

調理実習をふりかえって

～ 衣領域からミシンを使って被服製作

衣服領域の内容から製作の指導 ミシンと手縫いで作品作りの計画を立てる。

～ ミシンと手縫いで小物を縫う、作品を見合ってみる。

実習室使用の関係で授業内容が入れ替わることがある。

評価

毎回の課題の記録やレポートで75%程度、作品や発表等で25%程度を総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校家庭科教科書 開隆堂出版、小学校指導要領解説 家庭科編 文科省

【推薦書】家庭科はおもしろい 牧野カツコ監修 国土社、授業力UP家庭科の授業 鶴田敦子編著日本標準、家庭科の底力 作る手が子どもたちを輝かす お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社、小学校家庭科教育研究 教師

養成研究会家庭科教育学部会編著 学芸図書、家庭科ワークノート食生活と自立 大神田徳子 地域教材社

【参考図書】ティーンガイド 2冊 牧野カツコ監修、家庭科再発見 堀内かおる編著 開隆堂

科目名	道徳の指導法		
担当教員名	高橋 京子、綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つです。

講義では、学校をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における道徳教育の役割、意義、内容と指導の実際を学びます。加えて、道徳的な心情、道徳的な判断、道徳的な行為について、自己をもみつめなおし、自らの道徳教育観を深めてゆきます。

学修目標は、次の三つです。 小学校における道徳教育の役割を理解する。 「道徳の時間」について理解し、構想をたてる。 発表を通じて、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

内容

1. 道徳、道徳教育について
2. 現代社会と道徳教育 - 現状と課題
3. 学習指導要領における道徳教育の位置づけ、役割
4. 道徳教育のあゆみ
5. 道徳授業の実際
6. 道徳授業の実際
7. 学習指導案について 内容と形式
8. 資料の検討と分析、選択
9. 資料の検討と分析、選択
10. 発達に応じた指導とは 道徳性の発達理論について
11. 発達に応じた指導とは 道徳性の発達理論について
12. 指導案の作成手順、作成
13. 課題発表
14. 課題発表
15. まとめ

評価

試験40点、課題提出40点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しません

【推薦書】徳永正直・宮島秀光・榊原志保・堤正史・林泰成『道徳教育論 - 対話による対話への教育』

【参考図書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

科目名	特別活動の指導法		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動の指導案の作成	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等望ましい実施と指導上の配慮事項	
11	11. 総合的な学習の時間との連携	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生が選択した主題	
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生が選択した主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

【推薦書】押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だての有効性と問題点・留意点
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 子どもの気持ちをつかむ指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 進路指導の方法と指導計画
15	15. 学習のまとめ

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川？成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書

【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所

新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会

仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』 福村出版

科目名	養護内容		
担当教員名	潮谷 恵美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、保育士資格を得るために必要な科目であり、2年次後期開講の養護原理で学んだ内容を踏まえ、より実践的な学びをしていくことをねらいとする。1年次履修「社会福祉」「子ども家庭福祉」、2年次履修「子ども家庭福祉」「社会福祉援助技術」、「養護原理」や3・4年次の施設実習（保育所以外）とも関連性がある。

科目の概要

臨床事例やビデオ視聴を適宜活用しながら、子どもや子育て家庭への援助の始まりから終わり、アフターケアについて理解する。また、施設で生活をする子どもの日常生活の援助や危機介入について臨機応変に判断・対応していくための見識を養うことを目指す。グループディスカッションおよびグループワークも取り入れていく。

学修目標

1. 子どもの育ち、親としての育ちの過程を理解し、諸問題の背景と対応について理解を深める
2. 困難を抱えた子どもを理解する
3. 児童養護施設と地域のつながりや施設養護について理解し、施設保育者としての在り方を学ぶ

内容

1	社会の中での子どもの位置づけ
2	親が親として育つ過程と親権
3	自己実現、自立への支援・援助
4	児童養護の決定に関する基本的しくみ
5	保育者の基本的な養護援助・支援 児童養護施設を中心に
6	保育者の基本的な養護援助・支援 障害児系施設を中心に
7	保育者の基本的な養護援助・支援 療育を中心に
8	施設養護での心理的ケア
9	虐待を受けた子どもへの支援 なぜ虐待は起こるのか
10	虐待を受けた子どもへの支援 世代間伝達
11	施設内虐待と予防
12	施設と地域のつながり、家族再統合への取り組み
13	施設職員のメンタルヘルス
14	自立支援計画書の作成・方法
15	まとめ

評価

授業への参加状況（20点）、授業内の課題やリアクションペーパー（30点）、期末レポート（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 小木曾 宏 他 『よくわかる養護内容・自立支援』 ミネルヴァ書房

[参考図書] 市川和彦 『虐待のない支援 知的障害の理解と関わり合い』 誠信書房

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。乳児の人形を使った身長・体重測定、抱き方、排気の仕方、沐浴実習など体験型の学習である。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

評価 ペーパーテスト40点 実習参加度20点 レポート40点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名) [教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	児童保健学実習		
担当教員名	齋藤 麗子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育の現場では、子どもの健康観察は日常時に実施せねばならない。児童保健学演習では児童保健学1の学習を踏まえ、グループ単位で実習形式の授業を行う。乳児の人形を使った身長・体重測定、抱き方、排気の仕方、沐浴実習など体験型の学習である。正しい手洗い方法を知ることが感染予防、食中毒予防などの基本である。熱中症やけがの手当て、事故防止などの知識は、保育現場では欠かせない。この実習を主体的にまじめに取り組むことで、児童保健学2の理解が深まる。小児科専門医の立場から楽しい実際的な授業を進めたい。

内容

内容

- 1, 子どもの身体計測
- 2, 体温測定 心拍、呼吸数測定
- 3, 家庭で行う聴力検査
- 4, 家庭で行う視力検査
- 5, 子どもの事故防止
- 6, 手洗い実習 手洗い歌
- 7, ノロウィルス対応
- 8, 調乳 哺乳 排気
- 9, 乳児の抱き方、衣服の着脱 沐浴の手順
- 10, 沐浴実習
- 11, 夏の保育の注意 調査
- 12, 夏の保育の調査レポート
- 13, 外傷、骨折、けいれん等の対応
- 14, 実習の復習
- 15, まとめ 解説

評価

評価 ペーパーテスト40点 実習参加度20点 レポート40点によって総合的に評価し60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名) [教科書] 授業ごとにプリントを作成し配布する。

[推薦書] 小児保健実習 佐藤益子編著 ななみ書房

科目名	地域と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現代社会における福祉を理解するため、地域福祉の基本的考え方、またその背景を学ぶ。各地で展開されている住民の主体的な活動事例（ボランティア・NPO・コミュニティビジネス等）をとりあげ、多様な人々の多様な生活が展開する地域という総合的な空間の理解を深める。特に東日本大震災後、新たな「絆」を模索する取組を展開している東北に注目する。生活の場として、居住地域を見る視点を得る。

内容

1	現代社会におけるコミュニティと福祉
2	地域福祉の理念とその展開
3	地域福祉の理論の発展
4	地域福祉の主体と多様な地域団体
5	生活問題の発生とその把握 - 東日本大震災の復興過程から
6	住民参加と専門職の役割
7	事例検討 - 災害ボランティアをめぐって
8	事例検討 - 介護のネットワーク
9	事例検討 - 働く場を求めて
10	事例検討 - つながる関係を広げて
11	事例検討 - 安心して暮らす住まい
12	ソーシャルキャピタルの可能性
13	課題報告 - 自分の住む地域を考える
14	課題報告 - 自分の住む地域を考える
15	課題講評と講義のまとめ

評価

事例レポート（2割）、報告・発表（2割）、期末レポート（6割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：渋川智明『福祉NPO - 地域を支える市民起業』岩波新書 2001 369/S

広井良典『持続可能な福祉社会 - 「もう一つの日本」の構想』ちくま新書 2006 364/H

岩下清子・佐藤義夫・島田千穂『「小規模多機能」の意味論』雲母書房 2006 369.26/I

科目名	食と発達		
担当教員名	辻 ひろみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、子どもの発達の理解、保育の理解をしたうえで、子どもが健康に育つ生活の軸となる食生活について学ぶ。

科目の概要

子どもの発育・発達および特別な配慮などに応じた適切な栄養や食生活とは何か学ぶとともに、保育における子どもの発達に沿った食育支援、保護者支援に必要な知識を学ぶ。

学習目標

- ・教科書を読み、わからない用語をあげておいたノートを持って、授業に出席する。
- ・自分の食生活の記録は、乳幼児の親や保育士の食生活と置き換えて演習に臨む。
- ・演習は「やってみて」「振り返る」こと。

内容

1	ガイダンス、子どもの発達に応じた食について学ぶ意義
2	子どもの発達と栄養の基本的な知識
3	何をどれだけ食べたらよいか
4	子育てと家庭の食事(献立)構造の関係
5	妊娠期から授乳期の母体の変化と食生活の特徴
6	乳幼児の食生活(乳汁栄養)
7	乳児期の食生活(摂食機能の発達と離乳の実際)
8	幼児期の食生活(幼児期の心身の特徴と食事)
9	幼児期の食生活(幼児期の食生活上の問題と対応)
10	学齢期・思春期の食生活(心身の特徴と望ましい食生活および食の自立について)
11	特別な配慮が必要な子どもの食生活および支援
12	子どもの発達と食育
13	児童福祉施設の施設特性と子どもの食生活および支援
14	食育支援の計画から評価の考え方と事例
15	まとめ

評価

2/3以上の出席をもって評価対象者とする。評価は、授業内レポート40点、発表10点、定期試験レポート50点で、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】堤ちはる他著：子育て・子育てを支援する-子どもの食と栄養-、萌文書林

【参考図書】内田 園他著：子どもの食と栄養，(株)学建書院

亀城和子他著：保育所の食事を通して食育を，(株)学建書院

科目名	児童文化		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

人間は自然環境に適応すると共に、自然環境に働きかけて新たな環境を創り出す。この人間の営みを、自然との対比で「文化」と呼ぶ。さて人間は、子どもと共に生きることに深い喜びを感じ、長い歴史の中で「子どもの文化」を築き上げてきた。子どもは、文化という土壌の上に生み落とされ、成長を遂げてゆく。とはいえ、子どもも文化の作り手、伝え手ともなりうる。「児童文化」においては、子どもと大人が共に織りなす政の営みという視点から、生を共有する仲間が共に創造した文化について探求することを目指す。

内容

- 第1回 児童文化とは何か
- 第2回 子どもの成育儀礼にみる子育ての文化
- 第3回 年中行事と子どもの生活
- 第4回 子どもの伝承遊び
- 第5回 子どもの衣服・食事・部屋
- 第6回 情報化社会と子ども
- 第7回 伝統玩具（人形も含める）と子ども
- 第8回 教育玩具、キャラクター玩具
- 第9回 遊具、公園、遊園地
- 第10回 わらべ唄、唱歌、童謡
- 第11回 おはなしの歴史的変遷（昔話、口演童話、ストーリー・テリングなど）
- 第12回 紙芝居の世界
- 第13回 人形劇、ペープサート、パネルシアターなど
- 第14回 絵本の世界
- 第15回 幼年文学の世界

評価

授業への取り組み方20%、試験80%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童文化 子どものおあわせを考える学びの森』 皆川美恵子他著 ななみ書房

科目名	児童文学特論		
担当教員名	皆川 美恵子、松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

「児童文学特論」として、子どもたちを取り巻く物語世界が、どのようなものを具体的に考察していく。二人の担当者による二部構成で特別講義を進めていくが、前半は、小学校の国語の教科書も編纂している松木により、国語科教材としての児童文学を取り上げる。後半は、皆川により、学校教育場面では取り上げることの少ないと思われる作品を題材にして、子どもの文学の広さと深さについて考察を試みて行く。

内容

前半を松木、後半を皆川と分けて担当する。

- 1回 オリエンテーション 子どもたちを取り巻く児童文学の諸相
- 2回 小学校1年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 3回 小学校2年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 4回 小学校3年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 5回 小学校4年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 6回 小学校5年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 7回 小学校6年生の国語科教科書に登場する児童文学
- 8回 エリノア・ファージョンの児童文学
- 9回 アリソン・アトリーの児童文学
- 10回 フィリッパ・ピアスの児童文学
- 11回 ルーマ・ゴッデンの児童文学
- 12回 石井桃子の児童文学
- 13回 松谷みよ子の児童文学
- 14回 安房直子の児童文学
- 15回 まとめ 物語を享受する子どもたち

評価

意見発表、討議など授業への積極的取り組み方40%、レポート成績60%によって評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『教科書掲載作品（小・中学校編）』 日外アソシエーツ

科目名	保育方法		
担当教員名	山田 陽子、槇谷 厚子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、幼稚園教諭・保育士の資格を得るために必要となる科目です。

幼児期における教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うためにとっても大切です。幼稚園・保育園は、幼児にとって初めての集団生活であり、そこで一人ひとりの成長を願い、ともに生活する保育者の役割はきわめて重要です。その役割を確かめ、幼児期にふさわしい生活を支え、一人ひとりの発達に即した援助ができる保育者のあり方を考えます。

また、幼稚園現場の新鮮な話題や、具体的な日常もたくさん伝えていきたいと思っています。現場を身近に感じ、保育を自分自身の問題として捉え、各自が、自分なりの保育観を描いていかれるように授業を進めていきます。

内容

講義だけでなく、自分の園の行事のビデオを紹介したり、授業の終わりに絵本を楽しむひとときも計画しています。子どもの好きな歌や踊りも時間があれば紹介したいと考えています。

また授業の終わりに小レポートを提出していただきますが、自分の小さい頃を思い出したり、自分の今の思いをまとめたり、ひとつのテーマについてじっくり考えたりする良い機会になっているようです。

1	幼稚園ってどんなところ? どんな保育者になりたい?
2	安心して自分らしく過ごすことの大切さについて
3	“遊び”について考えましょう
4	三歳児入園当初のビデオを見て考えましょう
5	人とのかわりについて、トラブルの大切さについて考えましょう
6	“しつけ”について考えましょう 皆さんの規範意識は?
7	一人ひとりの成長について 皆さんで歌いましょう!
8	子育てについて、今のお母さんたちの思いに心を寄せましょう
9	自分の“幸せ体験”について考えましょう
10	行事について考えましょう・・・行事は生活に変化や潤いを与える・・・はず
11	運動会のビデオを見て、いろいろなことを感じ、考えましょう
12	日常の遊びから行事へ
13	いろいろな子がいる・・・みんなちがってみんないい
14	“みんなで楽しく音楽会”のビデオを見て、いろいろなことを感じ、考えましょう
15	個の成長が集団の成長へ 再びどんな保育者になりたい? 皆さんで歌って踊りましょう!

評価

授業の終わりの小レポート(50%)レポート(50%)により評価を行い160点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

(参考図書)『幼稚園教育要領解説』文部科学省

科目名	乳児保育		
担当教員名	帆足 暁子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要

現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達に遅れのみられる乳児」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標

子ども一人一人を大切にす保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

1	乳児保育 オリエンテーション
2	子どもの気質・新生児期の行動変容
3	保育者と乳児のかかわり
4	愛着の意義及び愛着の関係性障害
5	愛着関係の相互性について（映像資料より）グループ討議
6	乳児保育の実際（新卒保育者の資料より）
7	保育実践研究課題を選択し、グループ討議
8	保育実践研究課題を選択し、グループ討議・発表
9	乳児のけんか場面における保育のありかた・グループ討議
10	発達障害のある子ども・気になる子どもの理解と支援
11	連絡帳の書き方・保護者への返事の検討（グループ及び個人）
12	保護者に対する支援
13	乳児院の現状と課題
14	医療保育（病児・病後児・病棟保育）の実際
15	総合学習

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎回のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	乳児保育		
担当教員名	川喜田 昌代		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 乳児保育 を基礎とする。乳児保育を深めるための科目である。

科目の概要 現在、乳児保育を行う保育現場では、さまざまな問題を抱えている。発達障害の可能性が見られるような「抱っこを嫌がる乳児」「睡眠が安定しない乳児」「排泄への拘りが強い乳幼児」「不安定な乳児」「言葉の発達の遅れ」、また「虐待の可能性のある乳児」「病児への対応」「保護者対応」等である。これらの現状を学び、その保育について研鑽する。

学修目標 子どもひとり一人を大切に保育の在り方を模索する過程で、学生自身の乳児保育観を構築していくことを目的とする。また、乳児及び3歳未満児保育の中で学生自らがテ - マを選択し、学生自身の意欲に基づいて、自ら具体的に学ぶ - すなわち、保育課題に対する追求方法についても学ぶことを目標とする。

内容

保育現場の実践例からの「事例研究」及び、個人・グル - プにおける「テ - マ研究」の選択から分析まで、学生の主体性を尊重する。可能な限り、授業で提供される事例のみではなく、学生自身の乳児との体験や自分の乳児期の成育歴等、各自の体験の中から研究をすすめたい。この授業では、乳児の捉え方、課題の設定、研究の進め方、分析方法、研究結果の整理方法等を具体的に学習する。

また、乳児の映像等を活用して、乳児の心理や発達状況を捉える演習も行う。

評価

選択科目である以上、積極的な参加を期待する。

評価は、学生自身の積極性及び、研究発表や討論の内容による。

出欠席に関しては、履修する学生各自が責任をもって管理すること。

毎日のコメント及びレポートを各々50%により評価を行い、総合点60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて適宜紹介する。

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	A1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術A		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術A は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『マーチ』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	A1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A」をとったものが進む。

基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

大きな科目目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術B		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「箏」「エレクトーン」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A」をとったものが進む。

基本的には「音楽技術A」との関連で授業を進めていくので、「音楽技術A」を関連事項として熟読してもらいたい。

大きな科目目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術B は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で人気の高い『アニメソング』も勉強をして行く。個人レッスンの形で行う。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

「声楽」

基本的な活動としては「音楽技術A」との関連で、さらなる技術獲得を目指していく。歌における音楽表現をさらに勉強し、表現活動として伝えていく技術に取り組んでいくことが目標である。

「エレクトーン」

エレクトーンとしての演奏技術はいわばエレクトーンという電子楽器の扱いがなされなくてはならない。演奏もさることながら電子音を耳慣れていくことや、リズムをベースに演奏することへの慣れなど学ぶべきことは多い。そういった基本的なことを「音楽技術B」においては演奏を通して学んでいく。

「箏」

箏の演奏は古曲の演奏と、新曲の演奏に大別されると言える。日本古謡や古曲のオーソドックスな演奏形態の学びと、やや新曲といえる現代邦楽の基礎的なところをこの「音楽技術B」でおさえしていく。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	A1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術Cは下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『こどものうた』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。この段階では「節句のうた」などを中心に学んでいく。まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術C		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術C は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『こどものうた』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術A」ではアニメソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、日本古謡中心にここでは、進めていく。日本音階の糸の並びが理解できたあとは2週で1曲を仕上げていくことを目標とする。

2 - 3人のグループレッスンで行っていく。この段階では「節句のうた」などを中心に学んでいく。まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	A1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術D は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『園の行事』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。選択人数により内容が異なることもある。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術D」ではテーマソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、「日音楽の新曲」を中心に2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	音楽技術D		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	B1クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ピアノ奏法」の授業を終了し、さらに広く音楽を学ぶことを目的とし、「ピアノ奏法」で学習したピアノ演奏をさらに深めたり、それ以外の音楽分野も学ぶことができる。それぞれの音楽課題は保育文化に役立てることや、保育者として音楽を通しての子どもとのかかわりも、学習する内容となっている。

ピアノ演奏、声楽、日本音楽、電子楽器などジャンル別に技術を習得しながら、広い分野から勉強し、子どもと音楽の関わりを深めていく方法の一つとしての学びを実践する。

音楽実技A～Dは「ピアノ演奏」「声楽」「エレクトーン」「箏」から一つを選択する。

選択方法は「音楽技術A～D」のAから順番に選択をして行く。A・B・C・D 別に大きな目標は掲げてあるが、個人に合わせて必要と思われる授業内容を担当教員が行う場合がある。

内容

音楽技術D は下記の内容でそれぞれの実技を勉強する。

・「ピアノ演奏」

ピアノ技術をさらに深めるための授業。ここではさらに演奏曲のレパートリーを増やすとともに、保育現場の音楽で欠かすことのできない『園の行事』を視野に入れて勉強をして行く。基本は個人レッスン形式である。

これまでのピアノ演奏の学び加えて、個人的にテーマを持って、苦手な曲を勉強したり、反対に得意な曲をさらに深めたり、教員と相談の上自分の学びに挑戦することを学習の柱とする。

小品であれば、2週で1曲、大曲であれば3 - 4週で1曲を目指して仕上げていく。

まとめとして、小発表会を行うクラスもある。

・「声楽」

個人レッスン、重唱、コーラス、ミュージカルといったさまざまな形態を通して、歌唱力及び表現を身につける。発声法や歌唱法を少人数で、より本格的な指導が受けられる。選択人数により内容が異なることもある。

テーマは選択人数や声域などでどのように進めていくか、相談しながらテーマを絞り決定していく。

毎回の発声練習、歌唱練習は一期をとおして行っていく。

・「エレクトーン」

個人レッスンで行う。曲の内容によってはピアノとの連弾、クラビノーバとの連弾など、技術に応じて選曲をしていく。全く弾いたことのないものでも初歩からエレクトーンを指導していく。経験者についてはレベルに応じて選曲をしていく。「音楽技術D」ではテーマソング、映画音楽などを中心に進めていく。

・「箏」

文科省が小学校・中学校における「邦楽」を音楽に取り入れることとする授業を受けて、知識としての箏演奏を行い、「日音楽の新曲」を中心に2 - 3人のグループレッスンで行っていく。

まとめに於いては、専門家の三絃・尺八を呼んで「三曲合奏(箏・三絃・尺八合奏のこと)」を学内発表会として行う。

評価

授業に対する意欲・関心・態度に欠ける場合は、評価が得られない場合がある。

さらに毎回の授業内容の充実が得られていないという、担当教員からの指示があった場合も、評価が得られない場合が生じる。

上記のものが満たされた場合、適切な評価が担当教員より出される。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員より、授業時に教本の指示をする。

科目名	総合演習		
担当教員名	狩野 浩二、増田 吉史、廣坂 多美子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、教育職員免許法に定められた科目で、3年次前期に履修することになります。広い視野を持って現代的な課題を追究したり、そうした課題を子どもたちが学習する際の、指導方法を学んだりするために設けられました。

私たちの暮らす現代は、極めて変化の激しい時代です。自分たちの国だけでものごとを考えてはやっていけない時代です。常に日本と日本以外の地域との関わりを地球的な規模で考え、行動することが求められます。たとえば、人間尊重・人権尊重の精神、地球環境、異文化理解、民族対立・地域紛争と難民、人口と食糧、社会への男女の共同参画といった人類共通のテーマや、少子・高齢化と福祉、家庭の在り方など社会全体に関わるテーマのうちのいくつかについて、ディスカッション等を中心に学び合い、それらの内容を子どもの発達段階に応じてどのように教えたらよいかについて受講生同士で互いに学び合うことをねらいとしています。

受講生同士で話し合い、内容を深めあうことができること、グループ討論に主体的に参画することができること、口頭で発表したり、討論の結果をまとめることができること、などがねらいです。

内容

以下、演習のすすめ方についていくつかの内容を列記します(順不同)。

1. 総合演習のすすめ方(研究班作り、研究テーマ決定、発表の手順)
- 2~15. 研究班ごとの活動 研究テーマの研究と討論、発表、担当者による講評

評価

各班ごとの研究テーマ追究と、そのまとめとして作成するレポートづくり(20点)と口頭発表と事後レポートづくり(80点)などを組み合わせて、総合評価します。特に集団討論の実際において、積極的に取り組むことが大事です。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しません。

【推薦書】 教育課題便覧 平成22年版 学校教育課題研究会 窪田真二 学陽書房 教育法規便覧 平成22年版 窪田真二,小川友次 学陽書房 教育法規解体新書 速解!校務に役立つ知識とトラブル対処法 学校運営実務研究会(編集),佐藤 晴雄 東洋館出版社

【参考図書】講義中に適宜紹介します。

科目名	保育実習総論		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「保育実習」「保育実習」、「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」、「幼稚園教育実習」履修者の実習事前事後指導を目的とする。保育士資格を取得する場合必修。幼稚園教員免許のみ取得希望者も、必要に応じて受講する必要がある。将来保育者を目指す学生が受講し、意欲的に参加することが望ましい。

科目の概要

各実習の目的や課題を明確にすると共に、実習前・中・後の具体的なプログラム、実習先に関するインフォメーション、実習の心構えと準備、実習日誌の書き方などを指導する。また、実習を終えた学生の報告会を随時おこない、話し合いを通して経験を共有する。

学修目標

実習は「事前指導-実習-事後指導」という一連の指導を経て実習と認められる。そのことを理解し、授業に積極的に参加する。また、授業の中で進める発展的学習・課題をおこなうことで、保育の場・保育実践をより多角的に理解し、実習生としての責任感、自己課題の探索、臨機応変な実践力などの育成を目指す。

内容

【前期の主な授業内容】

<「保育実習」「保育実習」の事前指導>

- ・授業概要とスケジュール/各実習の目的と方法
- ・実習内容、実習生としての心構え
- ・乳幼児への援助のあり方
- ・実習日誌/指導案/実践演習
- ・実習施設別のグループワーク
- ・個別指導

【後期の主な授業内容】

<「保育実習」「保育実習」の事後指導>

- ・実習後の振り返り(グループディスカッション、個別指導)
- ・実習課題(自己課題/保育課題)の確認

<「幼稚園教育実習」の事前指導>

- ・3年次「幼稚園教育実習」の目的と方法、心構え
- ・実習内容の確認
- ・幼児期の発達による教材選択や指導のねらい、留意点
- ・実習日誌の意義と書き方/指導案/模擬保育
- ・個別指導

<「保育特別実習」「保育特別実習」「保育・教育特別実習」の事前指導>

- ・各実習の目的と方法

・実習履修の手続き

保育実習と教育実習に内容がまたがるので、保育士資格か幼稚園教諭免許状の片方のみの取得を希望する者も、4年次の「幼稚園教育実習」とあわせて受講することが望ましい。

評価

授業への参加状況（50％）や課題提出（50％）などから総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

<参考書>

最新保育資料集 子どもと保育総合研究所 ミネルヴァ書房

幼稚園教育要領解説書 文部科学省 フレーベル館

保育所保育指針解説書 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習」とともに必ず履修しなければならない。（その他「保育実習総論」も資格取得上の必修履修である。さらに保育特別実習「 」もしくは「 」を選択履修すること。）

科目の概要

原則3年次に2週間、保育所で実習を行い、責任実習も先方の保育所との相談の上経験する。保育園における最初の実習となる場合が多いので、まずは全年齢のクラスに1～2日間ずつ入れていただくようにし、年齢ごとの発達とケアのあり方を学ぶ。生活の中の様々な養護を実践すると同時に、保育を支える周辺の仕事を体験する。実習中は毎日保育実習日誌を提出し、指導者の助言を受け、各自の実習課題を明らかにし、学びを深めていくことが必要となる。他の職員と連携・協働できるような基本的なコミュニケーション能力と技能を育むことも非常に重要である。また、子育て支援における役割、他のスタッフの業務分担や協力関係も学ぶ。さらに保育士の保護者とのかかわりを観察し、家庭や地域との連携の必要性を学び問題意識をもってほしい。

学修目標

実習は「事前指導 - 実習 - 事後指導」という一連の指導を受けて実習として認められる。「保育実習総論」の指導をふまえ、実習先の状況の中で臨機応変に対応し、自己課題・保育課題を見つけていく。

内容

< 保育実習 の主な内容 >

- 実習施設の概要の理解、
- 保育所保育の実情の理解（保育の流れ等）
- 乳幼児の発達
- 保育課程・指導計画の理解
- 多職種職員の連携によるチームワークの実情
- 家庭・地域の連携
- 保育方法と保育技能の理解と習得
- 安全・危機管理
- 疾病予防や健康維持を図る配慮
- 保育士の倫理観などの視点をもち実習に取り組み、学びを深める

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習先の保育所は、基本的に、学生の居住する市区町村の担当部署に大学が依頼をして決める。公立が多いが、一部民間保育所もある。実習依頼にあたって相談がある場合は、指定の期日内に早めに相談をしておくこと。また、実習は原則3年次の夏季休暇中となる予定であるが、市区町村との調整で別の時期になる場合がある。各自が主体的な意識を持ち、実習プランニング（実習の準備も含めて）を立て、学生生活全体の調整をすること。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

<教科書>

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育実習		
担当教員名	向井 美穂、山田 陽子、鈴木 晴子、上垣内 伸子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

保育実習 は、保育士資格取得の必修の実習である。3年次に11日間(90時間)、保育所以外の児童福祉施設 乳児院 児童養護施設 肢体不自由児施設 知的障害児(者)施設等での実習を行う。宿泊実習が原則であるが、実習生の宿泊設備がない入所施設の場合は、通いの実習となる。

学生にとって宿泊実習は不安と緊張を感じるものであろう。不安を克服するために事前にボランティア活動をしたり、実践記録を読んだりして実習に焦点を合わせるようにする。実習に対して実践的なイメージをより具体的に持つことが重要である。配属先の施設について事前学習を自主的に行い、学生自身の実習における具体的目標を明確にした上で実習に望むことが求められる。

複雑多様化していく今日の子ども達のニーズに一貫して答えていくためには、子どもの発達や成長を理解し子ども達ひとり一人にきめ細かいアセスメント(事前評価)を行い、そのニーズに的確に把握し、個々の課題に向けて具体的プログラムを学ぶことは大切なことである。施設の職員・子ども達との共同生活を通して施設の実態に触れるという体験は、自己の抱いていた偏見や先入観を取り除くきっかけとなりうる。同時に施設の子ども達や職員についての理解を通して、新しい児童観・福祉観を身につけ、自分の保育に対する姿勢を見直す糸口とすることをねらいとしている。

内容

具体的な指導は実習総論 の年間30回の計画に従う。

「事前指導 配属先の発表 実習施設の事前報告書作成 初インターン報告書の提出 実習開始 巡回指導を受ける 事後指導(学内反省会) 個別指導(評価表にそって)」の流れにのって進める。

実習先の施設は、大学の指定した施となる。4月末から翌年3月末までに1名もしくは複数で実習を行う。実習は、なるべく授業のない時期に行うので、夏休みや期間休み、学園祭の前後になる場合が多い。しかし、受け入れ施設の都合により授業と重なる場合もでてくる。実習先決定後は、実習先福祉施設の具体的理解を深めることが必要となる。過去のオリエンテーション報告書や福祉施設の機能について事前に調べておくことが求められる。その上で自身の施設実習の具体的目標を掲げ、目標達成に向けてどのような実習をするかをイメージできるよう学習する。

施設における保育士の役割を学びながら、実習を通じて幅広い年齢層、多様な背景をもつ子ども達の生活ニーズを把握し、個別的・集団的に対応していく力量を高めていくこととする。生活をともにしながら保育を実践している施設保育士に求められる幅の広い職務内容を理解しながら、実習生としてどのような学びを深めていきたいかという自覚を持つことが大切である。

また知的障害、身体障害で実習する場合は他の専門職と連携をとるために治療教育や看護・医学やOT作業療法PT理学療法ST言語療法のリハビリテーションの専門を事前に学び、チームワークがとれるようにしておく。職員とのかわりを通しての子どもの理解という視点を忘れないように心掛ける。

評価

実習先の施設による評価を基本としますが、施設によって基準が一律でないので、大学で総合的な評価への読み替えを行う。また実習にあたって必要な提出書類に不備がないことも評価の対象とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大島恭二編 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	野口 隆子、上垣内 伸子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）- 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

保育士資格取得のためのの実習として、必修の「保育実習（「保」と略す）」「保育実習（「保」と略す）」のほか、この「保育特別実習（「特」と略す）」を履修する必要がある。「保」「保」「保育実習総論」を履修後に取り組む実習である。

科目の概要

「特」での実習では、今までの実習や主として「保」の中で探究した自己課題・保育課題と関連づけながら、学びを広げ深めていくことを主たる目的とする。そのため「保」の実習経験と「特」の実習をどうリンクさせるか、各自でよく考え、2週間の実習内容に関するプランを立てる。また、特定のクラスに連続して入れていただき、責任実習をおこなう。

学修目標

各自の学びの課題を明らかにした上で実習プランを立て、受け入れ先の施設の実情に合わせ、大学の実習担当と相談して実習を進めていく。実習時期と内容により事前事後指導を3年次の「保育実習総論」、4年次の「幼稚園教育実習」でおこなう。そのため「幼稚園教育実習」の指定された授業に参加し、「特」で学ぶ内容、実習先の理解、実習後の振り返り等の指導を受ける必要が生じる。

内容

「保育実習」の経験をふまえ、主として以下の内容に取り組む。

- 保育全般に参加し保育技能を習得する
- 子どもの個人差に応じた援助を理解する
- 多様な保育ニーズに対応した保育の展開を学ぶ
- 指導計画の立案と実践（責任実習）
- 家族や地域社会との連携を学ぶ
- 保育者の倫理について理解する
- 保育への自己課題の明確化
- 保育実習の総括

「実習の手引」をよく読み、事前指導の内容を十分に理解して実習に臨むこと。

実習中は実習日誌を毎日担当者に提出し、指導を受ける。責任実習（一日または半日の保育、または部分）の実施にあたっては、指導者の指導・助言のもと指導案を作成し、保育の実践、評価・反省という一連の保育の営みを体験する。「保育実習」で経験できなかったことにチャレンジする意欲をもって臨んでほしい。実習後は、保育日誌に必要な内容を補充して大学に提出し、一連の保育実習での学びを総括する。

尚、実習は原則2週間（土曜の半日を含む）とし、大学で指導する基準を満たす民間の認可保育所を自己開拓する場合と、大学がすすめる民間の認可保育所に配属される場合とがある。原則「保」とは違う保育所で体験すること。また、実習時期は原則4年生の夏季頃、もしくは大学の授業のない期間にておこなうこととする。

評価

実習先の保育所による評価を基本とするが、保育所の方針によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価への読み替えをおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回「実習の手引」を持参すること

【教科書】

大場幸夫・大嶋恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育特別実習		
担当教員名	向井 美穂、山田 陽子、鈴木 晴子、上垣内 伸子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

保育士資格を取得するための実習として、必修の「保育実習 」「保育実習 」、この「保育特別実習（特）」、この保育特別実習（特）」のいずれかを履修する必要がある。原則として保育所における実習体験の拡充を図る場合は「特」、施設（保育所以外）における拡充を図る場合は「特」ということになるが、受け入れ先との交渉や、その他の実習スケジュールとの関係も考慮しなければならない。また、将来保育所以外の児童福祉施設における保育士を目指す学生が主に選択する実習として位置づけられている。

「保育実習」で行った保育所以外の児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とする。また児童福祉施設の持つ社会的役割や機能、子どもの家族や地域社会における援助など、子どもを取り巻く社会的環境についても視野を広げた視点を養うことも目標である。

すなわち、将来保育所以外の児童福祉施設で子どもを援助していく専門職員に必要とされる子どもの発達を全人的にとらえる観点を実習により体得しようとする姿勢が必要とされる。

内容

実習先を自己開拓することが求められる。宿泊型および通所型の福祉施設が対象となる。実習先を自己開拓するにあたっては 施設の成り立ち、時代背景、社会的ニーズなど施設を取り巻く環境変化などを理解する 子どもの入所経路や入所理由など、社会的背景を十分に事前学習し施設の果たしている役割、機能を理解する 実習施設の生活環境などを理解する 子供たちや障害のある人々の家族はどのような思いや願いを持って施設を利用しているのかを理解する 施設で生活している人々の抱える問題、それが社会的にどのような状況から生じているのかを理解する、といったことを整理した上で検討することが必要である。

また施設保育士に求められる要素の一つとしてソーシャルワーク的援助が挙げられる。施設における生活場面での直接援助および家族に対する援助といった視点についても学びを深めておかなければならない。さらには実習先によっては障碍に関する専門的知識を有していることが必要とされる。実習先施設に応じた具体的実習計画を立てて実習に臨まなくてはならない。

実習は日数は11日間（半日を含む場合はなるべく11日以上にする）で「通い」型と「宿泊」型の実習形態となる。

施設種別は「保育実習」とは別の種別が望ましい。「保育実習」で経験できなかった生活援助計画、個別援助（ケースワーク）、集団援助（グループワーク）計画案を責任実習に取り入れる等積極的に実習に取り組むことが求められる。また生活を共にすることで自身の保育観を見つめなおし、さらには実践的な援助が出来るように取り組むことが大切である。

実習終了後の日誌においては自身の保育観や社会的養護、障碍に対する見方等についても振り返ることが求められる。

評価

実習先の施設による評価を基本とするが、施設によって基準が一律ではないので、大学で総合的な評価の読み替えを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大場幸夫・大島恭二 『保育実習』 ミネルヴァ書房

科目名	保育・教育特別実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	上垣内 伸子、野口 隆子、向井 美穂、横井 紘子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

幼稚園教諭免許状取得のための総合的実習である。

主な目的は以下のようである。

これまでの専門的学習成果、保育技術を与えられた保育条件のもとで発揮すること、幼稚園保育の実際を理解し、実践力を培うこと、社会人、職業人としての基礎的常識、行動のしかたを身につけること、さらに幼児についての深い共感と洞察に基づいて保育の省察をし、よりよい保育実践の改善への手だてを考えることが出来ること。

ただし、児童教育専攻の学生が、小学校教諭1種免許状に加え、幼稚園教諭 1 種免許状を希望する場合には、原則として「幼稚園教育実習 」を履修して実習を行う。

内容

詳細は「幼稚園教諭・保育士のための実習の手引」を参照のこと。

評価

評価の観点「幼稚園教諭・保育士のための実習の手引」参照のこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指定する。

科目名	教育実践論		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教員(義務教育学校)免許取得のために義務づけられている「介護等体験」に必要な基本的知識を学ぶ科目です。

介護等体験(七日間)に加えて、事前と事後の指導を総合して評価します。2年次には、この科目を登録するための事前ガイダンスが行われます。教職課程センターの掲示に注意してください。

体験の対象となる社会福祉サービスを利用している人、社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を図ること、体験時に必要となる対人援助について、コミュニケーションを中心に体験的理解を行なうこと、多様な価値観と幅広い人間観を培うことの重要性について学ぶこと、がねらいです。

内容

開講日は通常の講義時間帯以外に行うことがある。掲示等に注意すること。

事前ガイダンス、説明会、施設との打ち合わせ等が随時行われるので、掲示等に注意すること。

下記は、あくまで取り扱う内容を示したものである。

1. 事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等の方法

2. 介護等体験(福祉施設、特別支援学校等)

3. 事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

授業時、実習時のレポート等【30点】、授業態度【20点】、介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価【50点】

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト】

教職課程センターから貸与されるものがあるので注意すること。

体験先に提出するもの、体験後に教職課程センターに提出するものがあるので、注意すること。

埼玉県社会福祉協議会「学生のための介護等体験埼玉ガイドブック」

全国社会福祉協議会「新版・よくわかる社会福祉施設教員免許志願者のためのガイドブック」

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【履修登録は、通常では3年次後期に行ってください。前期科目は再履修者用です】

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。

また、教育実習後の発表、協議を行う。

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容

1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規
3	教育関係法規
4	教育課程、生徒指導
5	小学校学習指導要領
6	小学校学習指導要領
7	小学校学習指導要領
8	指導案を書く意義と書き方の基本
9	実習を終えて (4 年生の話)
10	教育実習に向けて
11	教育実習に向けて
12	事例研究
13	事例研究
14	教育実習事後指導
15	教育実習事後指導

評価

事前指導におけるレポート (2 割)、指導案等の取り組み状況 (3 割)

事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容 (5 割)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編 (文部科学省)

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

【この科目は、再履修者用です。3年生は3年次後期に履修してください。】

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えを初め、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。

また、教育実習後の発表、協議を行う。

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容

【再履修者用集中講義科目です】

以下の内容は、取り扱う項目を示します（順不同）。

- 1 教育実習ガイダンス
- 2 憲法、教育基本法
- 3 学校関係法令
- 4 教育課程、児童指導
- 5 小学校学習指導要領 総則
- 6 小学校学習指導要領 各教科、領域
- 7 学習指導案の作成 方法
- 8 略案の作成と授業の実際 国語
- 9 略案の作成と授業の実際 図画工作
- 10 略案の作成と授業の実際 道徳
- 11 事例研究 保健安全指導
- 12 事例研究 生徒指導
- 13 就学前の幼児を知る
- 14 教育実習事後指導 各学校での経験を交流する
- 15 教育実習事後指導 副免（幼稚園実習）での経験を交流する。

評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）

事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省）

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【4年生前期に実施します。注意してください】

この科目は、小学校教諭 種免許状を習得するためには必ず履修する必要がある。

この実習 は、実際に小学校現場での4週間の実習を行う。

そのためには実習 を受講し、事前事後の指導を受け、必要な単位数を満たしていることが求められる。実習期間は、勤務であるので、学校の勤務に合わせて拘束されることになる。また、子どもと常に接することになるので、その心構えができていくことが重要である。その自覚がほしい。

学校教育活動を実際の教育現場で実習体験することにより大学で学んだ初等教育を理論的・技術的にもより深く学ぶ。また、実践力をつけることを目的とする。

内容

小学校教諭 種免許状習得には、必ず履修すること。

「講話」実習校において、校長または分掌主任等から講話をいただく。

- ・学校の沿革、概要など
- ・教育目標、努力目標など
- ・勤務上の服務について

「観察」実習校において実際の教育活動を参観する

- ・各教科、特別活動、道徳など学習
- ・学級活動、朝や帰りの会、清掃、昼食指導などその他の教育活動
- ・他の実習生の指導の様子

「参加」指導担当教諭の授業初め生活指導の一部また補助者として参加する。

- ・授業担当教諭の授業の一部を分担する
- ・教材づくりや資料収集などの補助
- ・給食や清掃などの指導を分担する
- ・教室環境整備の補助
- ・学校行事等の役割分担など

「応用実習」指導担当教諭の指導のもと、実際に授業を行う

- ・各教科等実際に授業を行う
- ・学級運営に参加し、児童の理解や運営指導の方法を習得する
- ・学級や児童の実態に応じた学習指導案を作成する
- ・各教科等について研究授業を行う

評価

実習校の評価を基本とし、学校評価を加味して総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教育実習の手引き、教育実習日誌(大学より配布する)

科目名	教育実習		
担当教員名	松木 正子、綾井 桜子、狩野 浩二、清水 玲子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【この科目は再履修、科目等履修生等のために開設します。4年次生は前期科目を履修してください】

この科目は、小学校教諭 種免許状を習得するには必ず履修する必要がある。

この実習 は、実際に小学校現場での4週間の実習を行う。

そのためには実習 を受講し、事前事後の指導を受け、必要な単位数を満たしていることが求められる。実習期間は、勤務であるので、学校の勤務に合わせて拘束されることになる。また、子どもと常に接することになるので、その心構えができていくことが重要である。その自覚がほしい。

学校教育活動を実際の教育、現場で実習体験することにより大学で学んだ初等教育を理論的、技術的により深く学ぶ。、また、実践力をつけることを目的とする。

内容

【この科目は、再履修者、科目等履修者、4年次後期以降に履修する場合の科目です】

小学校教諭 種免許状習得には、必ず履修すること。

「講話」実習校において、校長または分掌主任等から講話をいただく。

- ・学校の沿革、概要など
- ・教育目標、努力目標など
- ・勤務上の服務について

「観察」実習校において実際の教育活動を参観する

- ・各教科、特別活動、道徳など学習
- ・学級活動、朝や帰りの会、清掃、昼食指導などその他の教育活動
- ・他の実習生の指導の様子

「参加」指導担当教諭の授業初め生活指導の一部また補助者として参加する。

- ・授業担当教諭の授業の一部を分担する
- ・教材づくりや資料収集などの補助
- ・給食や清掃などの指導を分担する
- ・教室環境整備の補助
- ・学校行事等の役割分担など

「応用実習」指導担当教諭の指導のもと、実際に授業を行う

- ・各教科等実際に授業を行う
- ・学級運営に参加し、児童の理解や運営指導の方法を習得する
- ・学級や児童の実態に応じた学習指導案を作成する
- ・各教科等について研究授業を行う

評価

実習校の評価を基本とし、学校評価を加味して総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教育実習の手引き、教育実習日誌(大学より配布する)

科目名	児童英語		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most.

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	児童英語		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most.

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	近代教育史		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、「教科又は教職に関する科目」の一つである。

欧米を中心とした教育の歴史(近代以降)について、教育の基礎理論とこれをうみだした教育家を対応させながら扱う。本科目で扱う内容は、いずれも教職教養における近代教育史のなかで重要な位置づけを与えられてきたものである。

近代以降の教育の流れを知り理解する。人間形成における教育、および学校教育の役割等を歴史のなかで把握する。

内容

1. 近代教育を歴史的にみる
2. 印刷術の発明と教科書の誕生 コメニウス『世界図絵』
3. あらゆる人にあらゆることを教える コメニウス『大教授学』
4. 習慣形成と教育 ロック『教育論』
5. 近代的孩子観の誕生 - ルソー『エミール』
6. 人間の教育 - ルソー『エミール』
7. ペスタロッチと「メトード」
8. 学校教育と教授 - ヘルバルト
9. 新教育の実践と「児童中心主義」
10. デューイ・スクールの実践 - 『学校と社会』
11. 経験としての教育
12. 「方法的社会化」としての教育
13. 教育と学習
14. 課題発表とまとめ
15. 課題発表とまとめ

評価

レポート60点、課題への取り組み20点、発表20点による総合評価とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】授業時に紹介する

【参考図書】今井康雄編『教育思想史』有斐閣

科目名	児童福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	D V法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	子どもの運動発達論		
担当教員名	鈴木 康弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「子どもの運動発達論」は児童教育学科の専攻科目のなかの選択科目であり、体育教材研究、の理論的背景となる科目です。

この講義では、子どもの運動発達の過程とその特徴や、運動に対する意欲の発達について学びます。

学修目標は次の4点です。生涯発達の視点から運動発達を理解する。 幼児・児童期における運動発達の経過と特徴を理解する。 運動に対する意欲の発達について理解する。 以上の理解に基づいて子どもの運動指導のあり方について考える。

内容

1	発達とは
2	運動発達の伝統的なたらえ方
3	生涯発達からみた運動
4	発達における成熟と学習
5	運動発達から見た運動能力の構造
6	運動コントロール能力の発達
7	運動体力の発達
8	運動発達の敏感期
9	運動に対する動機づけの発達
10	運動と外発的動機づけ
11	運動と内発的動機づけ
12	運動好きの心理
13	運動嫌いの心理
14	運動経験と精神的発達との関係
15	まとめ

評価

授業内容のまとめりごとに出す課題(80点)、通常の授業態度(20点)。三分の2以上出席することで評価を受けることができます。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	言語文化論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	子どもの科学演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野(物理, 化学, 生物学, 地学)に関して, 小学校理科で扱う内容に限定せず, 理論的な裏づけや根拠を理解するということより, 楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

内容

1	リニアモーターカーを教室に走らせよう(電流の働きを調べる)
2	動くおもちゃを工夫しよう。(おもりの働き)
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱(物に光を当てたり, 物で音を出したりしてみよう)
5	焚き火の名人(原始人の火おこし術から, 木がよく燃える仕組みを考えよう)
6	物の溶け方(きれいな結晶を作ろう)
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう(身近な微生物)
9	魚の食べ物の通り道を調べよう
10	植物や動物の育ち方(継続観察)
11	波の伝わり方(縦波、横波)
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか(大地のつくりとでき方)
14	星の動きを確かめよう(手作りプラネタリウム)
15	まとめ

評価

毎回の課題に対する提出されたレポート(60%)、授業参加意欲・授業態度(20%)、最終レポート(20%)などから、総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】資料を適宜配布する

科目名	食指導論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

私たち人間が生きていくためには「食」は欠かせない。また、子どもたちが健全な食生活を実践することは、健康で豊かな人間性を育てていく基礎となる。そして、生涯にわたり健全な食生活の実現を可能とし、心身の健康を確保するものである。子どもへの食育は知育、徳育および体育の基礎と位置づけられ、そのため様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を学習させなければならない。

ここでは、小学校教員として「食」に関する指導のために必要な基礎的・基本的な食の知識を学ぶ。

また、小学生の食生活の現状や問題点を把握し、それらを改善するための考え方や指導について理解する。

内容

- 1回 食指導論とは（食育基本法を含む）
- 2回 子どもの生活習慣について（健康の3原則）
- 3回 子どもの生活環境
- 4回 子どもの生活環境と食環境
- 5回 子どもの体力の現状と食の関係
- 6回 子どもの食生活の現状と問題点（朝食欠食・個食・孤食など）
- 7回 子どもの食生活の現状と問題点（偏った栄養摂取・ダイエット・肥満など）
- 8回 食文化からみた食教育
- 9回 食嗜好と食習慣の関係
- 10回 食の安全性の確保について（食品表示・食中毒など）
- 11回 学校給食について
- 12回 子どもの食に関する最近のトピックス
- 13回 具体的な食指導の例（1）
- 14回 具体的な食指導の事例（2）
- 15回 まとめ

評価

期末テスト60点、レポート30点、講義への参加度10点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】堤ちはる・平岩幹男著『やさしく学べる子どもの食』診断と治療社【推薦書】適宜紹介する

科目名	情報教育論		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるというものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

内容

1	情報とは何か (情報研究の歴史)
2	情報概念 (情報の 5 つの特性)
3	コミュニケーションと教育メディア (文字・ことば・文章、情報のデジタル化)
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方 (学校教育における位置づけ)
6	情報教育の目標 (3 本柱)
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践 (ICT活用能力)
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	学生によるプレゼンテーション
14	学生によるプレゼンテーション
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価 (30%)、課題レポートに対する評価 (30%)、テスト (30%)、授業への参加度 (10%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	IT活用授業演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク(LAN)が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

内容

1	これからの教員、これからのIT活用授業
2	IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3	普通教室でのIT活用のための準備
4	実践しやすさから見たIT活用授業
5	ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6	教科書の写真を大写して吟味する授業の設計
7	デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8	パワーポイントで教材作成
9	理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10	電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11	創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12	低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13	校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14	IT活用スキルのチェックリスト
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価(30%)、継続観察レポートに対する評価(30%)、テスト(30%)、授業への参加度(10%)を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	表現活動		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（08年度は「利根川」 斎藤喜博・詩、近藤幹雄・曲、09年度は「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲、10年度は、「善知鳥（うとう）の浜」、11年度は「利根川（朗読）」、今年度は、「かたくりの花」に取り組む予定です）。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらおう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合して評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点)、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦して提示する。

科目名	演習		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、大学における児童幼児教育学科の学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方などを学び理解する。

学修目標

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に構築するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は小人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教官の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。担当教官からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設け、卒業研究のテーマ選択および決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める下準備にとりかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・実験・創作に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容および提出物の評価 (60 点)、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢 (40 点)、という配点で総合的に判断する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組みを進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ(研究題目)の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施(アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究(提出された卒業研究論文)(70点)を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進捗確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施 (アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等)
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究 (提出された卒業研究論文) (70点) を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、学科・専攻で学んだ4年間の学修の総まとめであり、自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、1つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や文献収集・資料収集を行い、整理し、自分の考えを入れて1つの研究論文に仕上げるものである。

他の受講生からも批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。

9月に途中経過報告、11月に1次原稿提出、12月に最終提出と、段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標

自らが興味・関心を持ったテーマについて、一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究は、3年次の演習でテーマや研究の方向づけしてきたことや自己の興味・関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める途中においては、卒業研究ゼミの他の受講生と途中経過を報告し合い、進度確認や研究内容・研究手法の理解・共有を図り、進める。

主な取り組み内容

- ・ テーマ（研究題目）の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 文献や資料の収集
- ・ 各種調査の計画・実施（アンケート調査・聞き取り調査・現地調査・等）
- ・ 作品や模型などの設計・製作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の構成を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表等の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業研究論文の全体的形式を整える

評価

卒業研究（提出された卒業研究論文）（70点）を評価対象とし、特に、学生自身の取り組みや表現方法など、また、自己の考えが十分に表現されていることを重視する。また、研究テーマに取

り組む姿勢（30点）などを総合的に判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、推薦・紹介する。

科目名	国語教材研究		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

小学校教諭一種習得のための選択科目である。

国語科において学習材を教材として扱うための方法とその実践てきな学びを行う

さまざまな学習材を知り、それぞれのねらいと指導法を考察する

実際に指導案を作成したり模擬授業をするなど実践を通して学ぶ

研究協議を通して、教材研究の力をつけていく

内容

1	小学校の「国語科」について
2	国語科教材研究とは
3	文学教材の研究 低学年
4	文学教材の研究 中学年
5	文学教材の研究 高学年
6	模擬授業に向けて
7	授業研究の実際
8	説明的な文章の研究 低学年
9	説明的な文章の研究 中学年
10	説明的な文章の研究 高学年
11	表現の学習
12	音声言語の指導
13	言語事項の指導
14	書写の指導
15	まとめ

評価

ミニレポート（2割）、実践参加の状況（3割）、最終レポート（5割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 国語科（文部科学省）

科目名	社会教材研究		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会科における教材の見方・考え方を養い、指導方法のあり方等を考察し、教科指導力の向上をねらう科目である。

科目の概要

- ・ 小学校社会科の教材を取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいを持ち、どのように児童に学習指導させていくか、教材を作成し、教材のあり方・資料の取り扱い等について検討し深める。

学修目標

- ・ 学習活動のねらいに沿い、学習教材のとらえ方をより一層深める。

内容

ガイダンス

1 教材研究 1

- ・ 取り上げる教材の選定。学習のねらいの設定
- ・ 教材研究活動に取り組む
- ・ 学年、教材に合わせた教材作り
- ・ 教材研究した教材についての報告及び検討

2 教材研究 2（校内のもの、身近な地域について教材化する）

- ・ 教材とするものの選定。学習のねらいの設定
- ・ 現場、現地で調べる。資料の収集
- ・ 学習に使用できる収集素材の教材化に取り組む
- ・ 教材化について報告及び検討会の実施

3 まとめ

評価

課題報告（レポート）等の提出物 60 点、授業への取り組み 40 点、により総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説(社会編)平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校児童用教科書
- ・ 教師指導用の研究物

科目名	算数教材研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「算数概説」「初等算数科指導法」の上に立ち、小学校高学年の算数科目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置く。さらに後期で小学校6年間を通じた実践と理論としては「算数教材研究」で行う。

算数科(小学校高学年)の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主体的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。児童の実態と優れた実践を元に、高学年指導の要点をとらえる。

実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価を行う。

内容

1	ガイダンス(第4学年の指導のポイント)
2	算数科の指導内容と指導上の留意点(第4学年の指導計画と指導案・模擬授業)
3	数量関係の模擬授業とその評価(第4学年の指導計画と指導案・模擬授業)
4	図形の模擬授業とその評価(第4学年の指導計画と指導案・模擬授業)
5	年間計画と学習指導案の書き方(第5学年の指導のポイント)
6	数と計算の模擬授業とその評価(第5学年の指導計画と指導案・模擬授業)
7	教材研究と学習指導案の作成(第5学年の指導計画と指導案・模擬授業)
8	量と測定の模擬授業とその評価(第5学年の指導計画と指導案・模擬授業)
9	教育機器を利用した授業とその評価(第6学年の指導のポイント)
10	数と計算の模擬授業とその評価(第6学年の指導計画と指導案・模擬授業)
11	量と測定の模擬授業とその評価(第6学年の指導計画と指導案・模擬授業)
12	教育機器を利用した授業とその評価(第6学年の指導計画と指導案・模擬授業)
13	小学校高年の算数科指導における留意点
14	小学校6年間を通じた算数科指導における留意点
15	まとめ

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業(80%)、定期試験(20%)により総合的に評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 小学校学習指導要領解説算数編 文科省著(東洋館出版社)

学力向上フロンティアスクールの実践10、「算数科コース別指導による確かな学び、4-6年実践編」明治図書

【推薦書】 学力向上フロンティアスクールの実践9、「算数科コース別指導による確かな学び、1-3年実践編」明治図書

科目名	理科教材研究		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

「理科概説」、「初等理科指導法」の延長・関連として、本科目を設定している。新学習指導要領「理科」の目標は、「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う」となっている。小学校理科の中で扱われる観察や実験に関して各チームで分担して教材研究を行い、模擬授業形式で授業を行ってもらい、理科実験室ではどのように指導すればよいかを相互に体験しながら学習する。

理科教材研究 については、基本的に理科教材研究 と同じ内容であるので、どちらかを選択履修してもらいたい。

内容

1	ガイダンス（班編成、実験室の使用について）
2	第3学年（A）物質とエネルギー、物と重さ、風やゴムの動き
3	第3学年（A）物質とエネルギー、光の性質、磁石の性質、電気の通り道
4	第3学年（B）生命・地球、昆虫と植物、身近な自然の観察、太陽と地面の様子
5	第4学年（A）物質とエネルギー、空気と水の性質、金属・水・空気と温度
6	第4学年（B）生命・地球、人のつくりと運動、動物の誕生（5年）、季節と生物
7	第4学年（B）生命・地球、天気の様子と天気の変化（5年）、月と太陽と星
8	第5学年（A）物質とエネルギー、振り子の運動、てこの規則性（6年）
9	第5学年（B）生命・地球、植物の発芽、成長、結実
10	第5学年（B）生命・地球、流水の働き、土地のつくりと変化（6年）
11	第6学年（A）物質とエネルギー、燃焼の仕組み、電気の利用
12	第6学年（A）物質とエネルギー、物の溶け方（5年）、水溶液の性質
13	第6学年（B）生命・地球、植物の養分と水の通り道、生物と環境
14	小学校理科指導における留意点
15	まとめ

評価

実験レポート（40%）、最終テスト（40%）、授業中の課題への取組（10%）、授業参加意欲（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎と展望（東洋館出版社）

科目名	生活教材研究		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校低学年の生活科の教科について具体的な学習目標、内容、指導法を作業や実習を通して具体的に学ぶ。

科目の概要

春から夏にかけての学内の畑を使った栽培関係の活動や実習を中心に身近な自然や季節感に関する単元や学校探検を通して多岐にわたる表現方法を自ら取り組みグループで協力して指導方法を見に付ける。

学修目標

- ・自然に触れることで自然観や季節感を味わい活動を通して子どもへの指導を工夫する。
- ・学内を散策する活動から位置関係や機能、人々とのかかわりを学び生活科の授業に活かす。

内容

1授業の半分はグループ活動で畑の作業や植物の様子に目を向ける。また自然単元の指導案を作り模擬授業にあたり教材化をはかる。

- ・栽培を通して授業で自然を扱う際の心得や具体的な活動に気づく。

畑の開墾や肥料を施し畝をつくる。

夏に生育する野菜の苗や種を植えたり蒔いたりする。

自然観察し、記録にまとめながら子どもへのワークシートの試案を作成する。

野菜の手入れや管理、雑草抜きの活動をする。

夏野菜を収穫し、味わうための計画を立てる。

栽培活動は具体的な実践や体験が中心であり、模擬授業もグループで実践する。

- ・大学内の施設や建物の位置関係を確認して実際にどこにどのような場所がどのような目的であるかを確認しあう。それぞれの所を絵地図等で表し、十文字学園女子大学をより深く理解する。

グループで分担して学内外を探検する。

調べてきたことを元に発表方法を工夫しまとめる。

仲間と分担して作品にまとめて発表しあう。

子どもに指導する場合の注意点や指導内容について話し合う。

- ・体験を元に生活科の指導案作りと模擬授業を行う。

自然を扱った事例について

学校探検についての事例について

評価

活動や実践に意欲的にかかわったか、毎回の記録や発表内容等で、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

生活科関連の授業資料や参考図書は担当者が準備し、授業の中で配布したり紹介する。

科目名	音楽教材研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「初等音楽科指導法」に準じた講義で、児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

具体的な指導の場面での実践的な力を身につけ、指導案を作成し、実際に模擬授業などを行う。

小学校における音楽教育の指導力をたかめることを学修目標とする。

内容

1	小学校学習指導要領について
2	全学年の題材と系統
3	1学年の歌唱・器楽・鑑賞指導について・指導案作成
4	1学年の模擬授業
5	2学年の歌唱・器楽・鑑賞について・指導案作成
6	2学年の模擬授業
7	3学年の歌唱・器楽・鑑賞について・指導案作成
8	3学年の模擬授業
9	4学年の歌唱・器楽・鑑賞について・指導案作成
10	4学年の模擬授業
11	5学年の歌唱・器楽・鑑賞について・指導案作成
12	5学年の模擬授業
13	6学年の歌唱・器楽・鑑賞について・指導案作成
14	6学年の模擬授業
15	まとめ

評価

毎回の課題発表 (40点)、試験 (50点)、通常の授業態度 (10点) により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

「初等科音楽教育法」 (音楽の友社) 「音楽科指導書 音楽編」 (文部科学省)

科目名	図画工作教材研究		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

学習指導要領に示されている材料を基にした造形遊び、絵や立体、工作に表す活動、鑑賞等の諸領域の実技を通して図画工作科の授業を担当する上で必要な基礎基本を習得する。

実際の造形活動における身近なものや人とのかかわりを通して、材料・用具の基本的な扱い方を身につけ、自らつくりだす喜びや楽しさを味わうとともに、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。

内容

実技も含めた授業内容となるため、そのための身支度の準備や必要な道具・材料は各自、準備すること（適宜指示します）

。

1	オリエンテーション
2	色彩の基礎について学ぶ1
3	色彩の基礎について学ぶ2
4	絵の具との出会い1
5	絵の具との出会い2
6	絵の具との出会い3
7	様々な描画材料との出会い1
8	身近な材料を生かした表現1
9	身近な材料を生かした表現2
10	様々な描画材料との出会い2
11	様々な描画材料との出会い3
12	身近な材料を生かした表現2
13	身近な材料を生かした表現3
14	身近な材料を生かした表現4
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60％）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40％）により総合的に判断します。試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に指定しない。

適宜、資料を提示したり配布したりする。

科目名	家庭教材研究		
担当教員名	流田 直		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校学習指導要領に基づき小学校家庭科の目標や内容をさらに細部にわたって授業実践につながるような内容を扱う。実習や製作等の内容にもかかわり、実践や指導法を取り入れ実際の指導に役立つ内容を盛り込む。年間指導計画や指導案作成、模擬授業を盛り込み指導についての理念や指導技術の向上をはかる。 Ⅰでは主に入門期の内容を扱う。

内容

領域ごとに連続して扱う。

（１）食領域の内容

- 栄養指導
- 調理実習の指導
- 食の課題

（２）衣領域の内容

- 被服の役割
- 保存や保管（洗濯実習）
- ～ 被服製作

（３）住領域の内容

- すまいの役割
- 快適な住まい方

（４）家族に関する内容

- 多様な家族
- 自分の生き方

（５）生活を取り巻く課題や展望

- ～ 地域とのかかわり、環境問題（水とゴミ）
- 消費者問題とまとめ

評価

課題レポート、実習、製作、発表（２５％程度）毎回の記録等（７５％程度）で総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領、家庭科の教科書

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】家庭科のワークブック他授業で紹介する。

科目名	体育教材研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

「人間と運動A・B」「子どもと運動」「初等体育科指導法」を履修した学生が、小学校における体育科の授業づくりを進める上で必要になる実践的な知識や技能を身につけることをねらいとした科目である。

科目の概要

体育授業の実践的な指導のあり方、授業構成および展開の方法についてより深く学ぶことを意図している。特に、この「体育教材研究」では、器械運動・ボール運動、水泳等を題材に児童の実態と教材の内容を関連づけた授業づくりの学習を進めていく。

学修目標

小学校体育科の学習教材の特徴を理解するとともに、教材研究の進め方やその手立てを具体的に習得することをねらいとする。さらに、指導計画や学習指導案の立案・作成の要点を理解し、模擬授業ができるようになる。

内容

1	体育科の授業づくりの基礎・基本	: 学習指導案作成、授業の展開法、話術と表情（発問）
2	体育科の授業づくりの基礎・基本	: 教材研究の進め方と留意点（教材の解釈）
3	体育科の授業づくりの基礎・基本	: 用具や学習場面の工夫、運動量の確保
4	運動技能の定着と個人差に応じた指導について	
5	小学校6年間を見通した系統的な指導について	
6	安全への配慮と事故への対応（補助法）について	
7	運動領域別の教材研究	: 器械運動 *実技も行う
8	運動領域別の教材研究	: ボール運動 *実技も行う
9	運動領域別の教材研究	: 水泳（DVDの活用）
10	体育授業の観察法（分析と評価）および動作分析について	
11	グループワーク（単元計画・指導案の企画作成およびプレゼンの準備活動）	
12	単元計画・指導案のプレゼン	～省察と評価
13	単元計画・指導案のプレゼン	～省察と評価
14	単元計画・指導案のプレゼン	～省察と評価
15	まとめ（実際の体育授業を参観する場合あり）	

評価

各回ごとの課題作成（30点）、発表活動（30点）、レポート（40点）による評価を行い、60点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 Q & Aと授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科目名	国語教材研究		
担当教員名	松木 正子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校教諭一種習得のための選択科目である。

国語科において学習材を教材として扱うための方法とその実践的な学びを行う

教材研究 と異なる学習材を扱う

さまざまな学習材を知り、それぞれのねらいと指導法を考察する。

実際に指導案を作成したり模擬授業をするなど実践を通して学ぶ

研究協議を通して、教材研究の力を高める

内容

1	小学校の「国語科」について
2	国語科教材研究とは
3	文学教材の研究 低学年
4	文学教材の研究 中学年
5	文学教材の研究 高学年
6	模擬授業に向けて
7	授業研究の実際
8	説明的な文章の研究 低学年
9	説明的な文章の研究 中学年
10	説明的な文章の研究 高学年
11	「表現」の指導
12	音声言語の指導
13	言語事項の指導
14	書写の指導
15	まとめ

評価

ミニレポート（2割）、実践参加の状況（3割）、最終レポート（5割）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説 国語科（文部科学省）

科目名	社会教材研究		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会科学学習指導における資料の活用力の向上をとおして、教師としての教科指導力の向上をねらう科目である。

科目の概要

- ・ 児童の学年を想定しながら、その学年に適した資料を作成したり読み取りをしたり指導の実際を想定したりしながら、授業展開と児童の受け止め方、考え方などを考察し、より良い資料活用のあり方を追究していく。
- ・ 教師としての社会科学学習指導における「資料活用力と指導力」を養い高める。

学修目標

- ・ 社会科学学習指導における資料活用を中心として、学習指導力の向上をねらいとする。

内容

ガイダンス

- 1 社会科学学習における資料の果たす役割
- 2 身近な地域教材の活用
 - ・ 3・4学年で取り扱われる身近な地域にある教材
 - ・ 学習教材として活用できる素材を身近な場所から探し、新たに教材化を図る。
- 3 地理的内容の教材・資料の活用
 - ・ 地図を使った資料の表し方の工夫とその作成及び活用方法
 - ・ 地図を使った統計資料の表し方
 - ・ 地図を使って統計的な面的変化を表し読み取る。
- 4 歴史的内容の教材・資料の活用
 - ・ 年表形式を使った資料の表し方の工夫
 - ・ 年表を使って変遷のようすを分かりやすく表す工夫
 - ・ 年表から事象と事象の関連性を読み取る。
- 5 統計資料の分かりやすい表現方法の工夫
 - ・ グラフや図表を使った統計資料等の表し方

6 まとめ

評価

課題レポート等の提出物60点、授業への取り組み40点、により総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 小学校社会科児童用教科書

科目名	算数教材研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

「算数概説」「初等算数科指導法」「算数科教材研究」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、少人数あるいはT Tの加配の教員も含めた指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

小学校6年間を通した実践と理論の関係を理解することにねらいを置き、児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を通し要点をとらえる。

算数科（小学校6年間）の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う。行った模擬授業に対し指導を行うとともに学生による相互評価も行う。

内容

1	基礎・基本を確実に身につけさせる指導のあり方（指導計画、指導案、模擬授業）
2	個に応じた指導のあり方（指導計画、指導案、模擬授業）
3	学力のとらえ方と評価の関係（指導計画、指導案、模擬授業）
4	「一人一人の学力」を向上させる指導のあり方（指導計画、指導案、模擬授業）
5	校内の指導体制と保護者の意識（指導計画、指導案、模擬授業）
6	学校間の研究協力の実際と授業力アップの方策（指導計画、指導案、模擬授業）
7	問題解決指導のあり方（指導計画、指導案、模擬授業）
8	補充的な学習の指導と教材開発のあり方（指導計画、指導案、模擬授業）
9	発展的な学習の指導と教材開発のあり方（指導計画、指導案、模擬授業）
10	発展的な学習の指導の実際（指導計画、指導案、模擬授業）
11	T Tのための指導計画の実際（指導計画、指導案、模擬授業）
12	コース選択とコースガイダンスの実際（指導計画、指導案、模擬授業）
13	学習カードと評価を生かした指導の実際（指導計画、指導案、模擬授業）
14	評価のあり方と工夫の実際（指導計画、指導案、模擬授業）
15	まとめと振り返り

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、定期試験（20%）により総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

学力向上フロンティアスクールの実践9「算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編」明治図書

学力向上フロンティアスクールの実践10「算数科コース別指導による確かな学び、4 - 6年実践編」明治図書

【推薦書】学力向上フロンティアスクールの実践 8 「算数科コース別指導による確かな学び、理論編」明治図書

科目名	理科教材研究		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

「理科概説」、「初等理科指導法」の延長・関連として、本科目を設定している。新学習指導要領「理科」の目標は、「自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う」となっている。小学校理科の中で扱われる観察や実験に関して各チームで分担して教材研究を行い、模擬授業形式で授業を行ってもらい、理科実験室ではどのように指導すればよいかを相互に体験しながら学習する。

理科教材研究 については、基本的に理科教材研究 と同じ内容であるので、どちらかを選択履修してもらいたい。

内容

1	ガイダンス（班編成、実験室の使用について）
2	第3学年（A）物質とエネルギー、物と重さ、風やゴムの動き
3	第3学年（A）物質とエネルギー、光の性質、磁石の性質、電気の通り道
4	第3学年（B）生命・地球、昆虫と植物、身近な自然の観察、太陽と地面の様子
5	第4学年（A）物質とエネルギー、空気と水の性質、金属・水・空気と温度
6	第4学年（B）生命・地球、人のつくりと運動、動物の誕生（5年）、季節と生物
7	第4学年（B）生命・地球、天気の様子と天気の変化（5年）、月と太陽と星
8	第5学年（A）物質とエネルギー、振り子の運動、てこの規則性（6年）
9	第5学年（B）生命・地球、植物の発芽、成長、結実
10	第5学年（B）生命・地球、流水の働き、土地のつくりと変化（6年）
11	第6学年（A）物質とエネルギー、燃焼の仕組み、電気の利用
12	第6学年（A）物質とエネルギー、物の溶け方（5年）、水溶液の性質
13	第6学年（B）生命・地球、植物の養分と水の通り道、生物と環境
14	小学校理科指導における留意点
15	まとめ

評価

実験レポート（40%）、最終テスト（40%）、授業中の課題への取組（10%）、授業参加意欲（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 理科編（文部科学省）

【推薦書】未来を展望する理科教育（東洋館出版社）、変わる理科教育の基礎と展望（東洋館出版社）

科目名	生活教材研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	図画工作教材研究		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

学習指導要領に示されている材料を基にした造形遊び、絵や立体、工作に表す活動、鑑賞等の諸領域の実技を通して図画工作科の授業を担当する上で必要な基礎基本を習得する。

実際の造形活動における身近なものや人とのかかわりを通して、材料・用具の基本的な扱い方を身につけ、自らつくりだす喜びや楽しさを味わうとともに、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。

内容

実技も含めた授業内容となるため、そのための身支度の準備や必要な道具・材料は各自、準備すること（適宜指示します）

1	オリエンテーション
2	身近なものとのかかわり1
3	身近なものとのかかわり2
4	粘土との出会い
5	木との出会い1
6	木との出会い2
7	木との出会い3
8	身近にある材料を使った表現を学ぶ1
9	身近にある材料を使った表現を学ぶ1
10	グループ演習1：共同製作のための導入（構想）
11	グループ演習2：共同製作（製作）
12	グループ演習3：共同製作（製作）
13	グループ演習4：共同製作（製作）
14	グループ演習5：共同製作（発表）
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60%）。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40%）により総合的に判断します。試験は行わない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは特に指定しない。

適宜、資料を提示したり配布したりする。

科目名	家庭教材研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

小学校学習指導要領に基づき小学校家庭科の目標や内容をさらに細部にわたって授業実践につながるような内容を扱う。実習や製作等の内容にもかかわり、実践や指導法を取り入れ実際の指導に役立つ内容を盛り込む。年間指導計画や指導案作成、模擬授業を盛り込み指導についての理念や指導技術の向上をはかる。では主に を深めた内容(6学年の内容)を扱う。

内容

領域ごとにこれまで実施していない実習や製作を加え、教材研究を深める。

（１）食領域の内容

- 食生活を見直そう
- 栄養素のはたらき
- 加工食品と添加物

（２）衣領域

- 衣服の手入れ
- 繊維の種類や品質表示
- 小物製作
- 小物製作
- 小物製作

（３）住領域

- 住まいのはたらき
- 安全にすむには
- 清潔な住まい（清掃や整理整頓、収納）

（４）家族に関する内容

- 自立するには
- 家族とのかかわり

（５）生活を取り巻く課題や展望

- 地域とのかかわり
- 消費生活と環境

評価

課題レポート、実習、製作、発表（２５％程度）で毎回の記録等（７５％程度）で総合的に評価とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校指導要領、家庭科の教科書(開隆堂) 地域教材社の家庭科のワークノート（授業開始後購入予定）

【推薦書】 【参考図書】 いずれも授業で紹介する。

科目名	体育教材研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「人間と運動A・B」「子どもと運動」「初等体育科指導法」を履修した学生が、小学校における体育科の授業づくりを進める上で必要になる実践的な知識や技能を身につけることをねらいとした科目で、「体育教材研究」と並列に位置づけである。

科目の概要

体育授業の実践的な指導のあり方、授業構成および展開の方法についてより深く学ぶことを意図している。特に、この「体育教材研究」では、器械運動・陸上運動・なわとび・保健学習等を題材に児童の実態と教材の内容を関連づけた授業づくりの学習を進めていく。

学修目標

小学校体育科の学習教材の特徴を理解するとともに、教材研究の進め方やその手立てを具体的に習得することをねらいとする。さらに、指導計画や学習指導案の立案・作成の要点を理解し、模擬授業ができるようになる。

内容

1	体育科の授業づくりの基礎・基本	: 学習指導案作成、授業の展開法、話術と表情（発問）
2	体育科の授業づくりの基礎・基本	: 教材研究の進め方と留意点（教材の解釈）
3	体育科の授業づくりの基礎・基本	: 用具や学習場面の工夫、運動量の確保
4	運動技能の定着と個人差に応じた指導について	
5	小学校6年間を見通した系統的な指導について	
6	安全への配慮と事故への対応（補助法）について	
7	運動領域別の教材研究	: 器械運動、陸上運動 *実技も行う
8	運動領域別の教材研究	: なわとび *実技も行う
9	保健学習の教材研究（DVDの活用）	
10	体育授業の観察法（分析と評価）および動作分析について	
11	グループワーク（単元計画・指導案の企画作成およびプレゼンの準備活動）	
12	単元計画・指導案のプレゼン	～省察と評価
13	単元計画・指導案のプレゼン	～省察と評価
14	単元計画・指導案のプレゼン	～省察と評価
15	まとめ（実際の体育授業を参観する場合あり）	

評価

各回ごとの課題作成（30点）、発表活動（30点）、レポート（40点）による評価を行い、60点以上を合格とする

。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

安彦忠彦 監修 「小学校学習指導要領の解説と展開 体育編 Q & A と授業改善のポイント・展開例」 教育出版

科目名	学級経営法		
担当教員名	増田 吉史、小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。

学校経営の基盤は教科の指導においていない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信をもって児童や保護者に接することが出来るようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。

問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者たちに適切に対応できる力を育成する。

内容

1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。
2	学級教育目標設定の手順の例
3	学級経営案の作成（学級目標、学級経営方針、学級の実態把握）
4	学級経営の計画（教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導）
5	学級経営の計画（生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携）
6	学級経営の計画（学級事務の処理、学級経営の評価）
7	各種表簿，観察を通じて，児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向，得意教科や不得意教科，つまずきなど実態の把握方法。
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動のよりよい環境構成。
10	学習評価，諸表簿作成などの事務処理の実際。
11	学級経営に関する保護者への通知、学級だよりや懇談会等での連携の方法。
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ。
14	家庭及び地域の様子の把握。
15	振り返りとまとめ

評価

提出物（40%）、小テスト（40%）、試験（20%）によって総合的に評価する。

60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小学校学習指導要領解説 総則編

【推薦書】

なし（作成中）

科目名	教職演習		
担当教員名	黒瀬 任通、増田 吉史、高橋 京子、廣坂 多美子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職を目指す受講者のための選択科目である。教職演習 の学修の上に、さらに今日的な教育課題を題材に、受講者自身の教育に対する見方・考え方を広げ深める中で、教育的信念の確立をねらうものである。

科目の概要

実際の教室における授業や指導場面、または対面している相手を想定して、時間設定などもする中で、具体的な動きや対応を考えながら、臨機応変に進められる授業形態で取り組み進める。

学修目標

- ・ 国の教育動向、学習指導要領の内容や変遷などをより深く理解する。
- ・ 教員としての学習指導や生徒指導の実践的指導力を高める。
- ・ 自己の特徴や考えを、文章や言葉などで表現したり、相手とうまくコミュニケーションできたりする教師としての表現力を高める。

内容

- 1 学習指導要領の変遷
- 2 今次、学習指導要領の改訂の基本理念とポイント
- 3 国の教育会議からの各種答申の内容と学校教育
- 4 都道府県・政令市が取り組む独自の教育施策
- 5 都道府県・政令市が掲げ求める教師像
- 6 めざす児童・生徒像、めざす学級像、学年目標、学級目標
- 7 学級づくり（1）学級の日常生活のルールづくり
- 8 学級づくり（2）学級の学習のルールづくり
- 9 学級づくり（3）学級の活動ノルールづくり
- 10 学級での授業の法的位置づけ（「法」と「学級での授業」までのつながり）
- 11 学習指導の実際と工夫のポイント（学習指導案の作成）
- 12 学習指導の実際と工夫のポイント（学習に使う資料の準備）
- 13 学習指導の実際と工夫のポイント（学習の場づくり）
- 14 学習指導の実際と工夫のポイント（授業展開に合わせた発問の工夫）
- 15 模擬授業の展開（国語）
- 16 模擬授業の展開（算数）
- 17 模擬授業の展開（社会）
- 18 模擬授業の展開（理科）
- 19 生徒指導の実際（事例的指導の実際）
- 20 生徒指導の実際（場面指導のあり方）
- 21 自己の特徴や考えを表現する技法（文章による）
- 22 自己の特徴や考えを表現する技法（実技・行動演技による）
- 23 自己の特徴や考えを表現する技法（言葉による）
- 24 人と対面した時の関わり方（コミュニケーションの実際）

- 25 質問されたことに関して自己の考えを表現する（学習指導に関して）
- 26 質問されたことに関して自己の考えを表現する（生徒指導に関して）
- 27 質問されたことに関して自己の考えを表現する（教育方針・施策に関して）
- 28 討論の中で自己の考えを表現する（学習指導・生徒指導に関して）
- 29 討論の中で自己の考えを表現する（学級づくりに関して）
- 30 まとめ

評価

課題レポート・提出物（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 各種審議会等からの答申文 等
- ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	教職演習		
担当教員名	廣坂 多美子、黒瀬 任通、増田 吉史、高橋 京子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職を目指す受講者のための選択科目である。

教師としての自己の教育に対する考え方、教師としての自己のあり方等の根本となる信念の確立をめざすものである。

科目の概要

学校教育の具体的な課題を取り上げ、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組む。また、指導の実際を模擬授業、場面指導として表す取り組みを行なう。

学修目標

- ・ 自己の教師としての学習指導、生徒指導、保護者への対応に対する考え方、あり方等をより一層磨き深める。

内容

- 1 現在の子どもたちの抱える実態と課題
- 2 学習指導の在り方と実際(模擬授業、場面指導の実際)
- 3 生徒指導の在り方と実際(模擬授業、場面指導の実際)
- 4 児童生徒の活動に対する指導の在り方と実際(模擬授業、場面指導の実際)
- 5 都道府県・政令市が掲げる教育施策に対する自己の受け止め方と具体的な取り組み
- 6 自己の特徴を活かした教師としての取り組み(文章記述、ことばで表現する)
- 7 信頼される教師の姿とあり方
- 8 めざす学級経営のあり方を表わす(文章記述、言葉による表現)
- 9 めざす学級像、児童生徒像についての考察と表現
- 10 学級のルールづくり(生活、学習、活動、等)
- 11 体力向上、健康を守る児童生徒の意識づくりと指導・育成のあり方
- 12 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を文章により表現する。
- 13 自己の学校教育に対する考え方、具体的取り組み方を言葉により表現する。
- 14 学力向上に対する考え方、具体的取り組み方を文章記述、言葉で表現する。
- 15 まとめ

評価

課題レポート・提出物(60点)、授業への取り組み・小テスト(40点)などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説(総則編) 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 各種審議会等からの答申 等
- ・ 都道府県・政令市が掲げる教育施策・求める教師像 等

科目名	教職演習		
担当教員名	廣坂 多美子、増田 吉史、高橋 京子、松木 正子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職を目指す受講者のための選択科目である。

教師として学校に勤務することを想定し学校における教育活動の実際への対応について実践的に考察し取り組む科目である。

科目の概要

学級担任や学年に所属する教師が取り組む多くの教育活動について、具体的な事例や場面を想定し、実践的に活動に取り組んでいく学修活動を進める。

学修目標

- ・ 担任を担当する教師として教育活動に取り組んでいける実践的技能を身につける。

内容

- 1 学級担任の1日
- 2 めざす児童生徒像
- 3 学級経営案の作成
- 4 学級目標、学級のルールづくり（学習、生活、活動、遊び、等）
- 5 学級担任の仕事の内容と実際（学級運営の在り方）
- 6 学級担任の仕事の内容と実際（学習指導のあり方）
- 7 学級担任の仕事の内容と実際（生活指導のあり方）
- 8 学級担任の仕事の内容と実際（保護者・地域との関わり方）
- 9 朝の会、帰りの会のあり方、児童生徒の係り活動の実際
- 10 学級の日常活動の実際（給食活動、清掃活動等のあり方）
- 11 学級通信のあり方と実際
- 12 授業参観の運営のあり方（参観授業、保護者会の運営）
- 13 児童生徒の成績物の管理（児童生徒の作品管理、成績の記録、相談記録、等）
- 14 学級担任が管理する諸表簿等の実際（出席簿、指導要録、通知票、等）
- 15 まとめ

評価

課題レポート・提出物・（60点）、授業への取り組み・小テスト（40点）などにより総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考書

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

・ 小学校学習指導要領解説 平成20年8月 文部科学省 等洋館出版社

科目名	幼稚園教育実習		
担当教員名	岡上 直子、上垣内 伸子、大宮 明子、鈴木 晴子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための保育現場における総合的実習の科目である。

小学校教諭免許状取得のために4週間の小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとするのが求められる。

幼稚園での教育実習を体験することで、大学で学習した理論や教育方法を活用しながら、幼稚園教諭を目指す者として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付けることを目標とする。

科目の概要

幼稚園教育の基本となる考え方、幼児の発達特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、実習園における総合実習及び実習の経験から学んだことの理解を深める。

学修目標

幼稚園教育の理念・特質を理解する

幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する

幼稚園教育の具体的な指導力を身に付ける

幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

内容

（１）事前指導

課題意識をもって実習に臨むことを目指して、幼稚園教育の基本となる考え方について学び、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達特性と観察の方法について

保育内容、指導と評価

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案作成の方法

実習園におけるオリエンテーション（園長、実習担当の教職員等による）

（２）総合実習

小学校教諭 1 種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、2週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。

幼児集団を指導する部分実習（数回）及び責任実習（1日）を行う。

両実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とするが、帰省先での実習など特例は認められる。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

幼稚園教育と小学校教育の接続（遊びの中の学びから学習へ）

評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を30%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を70%として、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】プリント配布

【参考書】文部科学省 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館

文部科学省 「幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価」 ぎょうせい

科目名	児童学研究法		
担当教員名	大宮 明子、長田 瑞恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-児童幼児教育学科 児童教育専攻専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)